ミシンはマークで
お選び下さい

HZD－956 型
ダイカスト・フルオートジグザグ

東京重機工業株式会社
本社工場 東京都調布市国領町８丁目２番地ノ１電話（480）1111番（大代表）

ハンドボール「第45号目次」

昭和42年8月号

表紙写真　全日本学生選手権大会決勝
立大対芝工大戦より

私のことば
よりよい審判技術を

日本ハンドボール協会審判部長
安藤純光

日本ハンドボール協会も創立三十周年を迎えるようになった。三十才と云えば、世間からもいわゆる大人として認められ、希望に満ちた活動意慾旺盛な時代である。人生における一つの節である。

この意味で、日本のハンドボール界もすべての点において、転換期を迎えているのではなかろうか。幸か不幸か昨年末の混乱から、新体制のハンドボール協会が船出した。まさに今その転換期であろう。あまりほめられたきっかけではないが、これを機に脱皮して飛躍を遂げたいものである。

この間に海外遠征、世界選手権大会への参加、外国チームを招いての国際試合も行われた。また今秋には西独チームの来日も予定され、各地で国際親善試合が行われる。これらについても、もはや参加すればとか、外国チームを招いて対戦すればよいとかいう単純な考え方を繰り返しては居られないだろう。日本のハンドボールも参加することに意義があるという時代は過ぎた。技術部長も力説しているように、今や参加して勝つことを考える時代になっているのではなかろうか。そのためには充分な準備をととのえて、これに対すべきである。

これまでの遠征や国内の外国チームとの対戦が、無意味であると云うのではない。その都度遠隔の地ヨーロッパと云うハンデを乗り越えて、可能な限りの成果をあげていることは、活字や話で見聞きしてその苦労に対し敬意を表する。しかし、さらによい成績を期待するなら充分な準備の期間とより高度な体力と技術の追求が必要であろう。この意味でナショナルチームの結成は誠に当を得たものであると思う。

さて、私は、この技術の発展に大きな影響を与える一つはレフェリーの審判技術であろうと思う。プレイヤーにとってトレイニングによって鍛えあげた技術を発揮する場が試合であり、試合にはそれを審判するレフェリーが必要である。試合を管理運営するレフェリーの審判技術が未熟で、笛が適正を欠けば、せっかく築きあげられた高度な技術を阻止するばかりでなく、技術の発展を阻害することにもなりかねない。このように考えれば、レフェリーは、ハンドボールの発展にきわめて大きな役割を演ずることになる。今や顔や年令で審判をする時代ではない。選手が絶え間ないトレイニングによって、さらに高度な技術を求めているのと同じように、レフェリーも常に笛をはなさず、より多くの経験を積み、正しいレフェリーとしての試合の見方、笛の吹き方を研究すべきであろう。われわれ審判に、たずさわるものも、この機に脱皮して三十才にふさわしい審判技術を築きあげ、日本ハンドボールの発展に貢献したいものである。

立教、日体大順当に優勝
（男子・女子）

全日本学生ハンドボール選手権大会

高松宮杯・男子第10回、同妃杯・女子第3回全日本学生選手権は7月11日から5日間、東京駒沢第2球技場に全国から男子35、女子7校が参加して開かれた、男子は、第2日で関西をはじめ地方勢がすべて姿を消してしまい関東同士の激しい優勝争いとなったが、立教が安定した力を見せ優勝した。

一方、女子は予想通りの展開で決勝リーグが行われたが、日体大が強味を発揮し、危げなく連破し、3連勝した。

男子

▽1回戦

中京大（東海）37（17－2 20－3）5 広島商大（中四国）

名古屋大（東海）18（10－6 8－9）15 東北大（東北・北海道）

名城大（東海）18（10－9 8－7）16 富山大（北信越）

○……東海勢が順当勝ちした。実力伯仲の名大－東北大は一進一退の接戦で九たび同点となったが、名大は10分11－11から平松の連続ゲットで余裕をもち、押し切った。北信越1位の富山大はエース橋本の欠場で初出場の名城大に惜敗。

▽2回戦

芝浦工大（関東）29（17－3 12－9）12 中京大

関大（関西）20（11－4 9－6）10 武蔵工大（関東）

西南学院（九州）25（11－12 14－7）19 日大（関東）

日体大（関東）31（16－1 15－4）5 京大（関西）

法大（関東）24（11－5 13－3）8 愛知教大（東海）

北大（東北・北海道）22（13－6 9－5）11 東大（関東）

慶大（関東）37（17－7 20－3）10 金沢美術工芸大（北信越）

明星大（関東）26（14－8 12－6）14 甲南大（関西）

中大（関東）29（12－7 17－4）11 名城大

明大（関東）19（15－7 4－10）17 桃山学院大（関西）

東北学院大（東北・北海道）25（16－9 9－6）15 国士館大（関東）

東京教大（関東）26（14－8 12－6）14 関学（関西）

早大（関東） 不戦勝 九州産大（九州）

立命館大（関西）15（10－9 5－4）13 東京学芸大（関東）

大阪経大（関西）15（9－4 6－5）9 順天堂大（関東）

立大（関東）39（20－4 19－4）8 名古屋大

○……甲南大（関西4位）が明星大（関東3部1位）に完敗する波乱があった。

明星大は今秋から二部昇格が決まり元気、甲南大は久光ら主力が就職試験で欠場。気力の点でスタートから差があった。

関大（関西2位）が武蔵工大（関東2部3位）に苦戦したのも意外だった。

前半関大は武工大GK田中の好守にあって点差をひらけず、焦りも手伝ってまったくよいところがなかった。25分6－5から2点をあげて一息つき、後半は出足のよい攻撃で加点、どうにか面目を保った。武工大の健斗を賞したい。

明大－桃山大は明大が後半5分5－12の劣勢から藤井・鈴木の活躍で一気に逆転するという粘りをみせてスタンドを湧かした。

西南学院大－日大はともに上り坂のチームらしく熱の入った試合をくりひろげたが、西南攻撃陣のシュート力がわずかに優つた。両チームとも攻防両面のフォロー・プレーが甘く、この点が改まればさらに躍進が期待できる。

注目の東京教大－関学は関学に往年の精彩がなく、東京教大は前半22分10－5とはなしてペースを握り制勝した。関学は後半細井の健斗でわずかに気勢をあげたにとどまった。

優勝候補の芝工大、立大はともに東海の上位校と顔をあわせたがやはり攻守に一日の長を見せた。

惜しまれるのは中京大だ。立ちあがり巧い試合運びでリードする場面もあったが、後半は疲れが出て、芝工大に走りまくられた。ダブルヘッダーの〝不運〟もひびいていたようだ（評は田中秀、岡村安藤、杉山）

▽3回戦

芝浦工大 25（8－11 17－6）17 関大

芝工大の変化のある攻撃に、前半の関大ディフェンスは完全にふりまわされ、15分に早くも7－1と引きはなされてしまった。

後半になってようやく関大は、持ち前のスローペースから長野、宮永らがシュートを決めたが、あまりにも前半の失点が大きすぎた芝工大のエース近森を意識しサイドのマークを忘れたディフェンスの失敗が誤算となったようだ。

芝工大も後半はシャープな動きがなくなり単調な攻撃をくりかえしたのは一考して欲しい（由利弘）

日体大 32（19－9 31－6）15 西南学院大

西南は1分小島のゲットで先制したが、日体はそのあと連続7点をあげてあっさり試合の主導権を握った。

西南の攻撃は、横パスが多く、出足のよい日体ディフェンスのカットにあっては失点、傷口を広げていたのはまずかった。

結果的には大差となったが最後まで力をふりしぼって戦った西南の試合ぶりは気持ちのよいもので、今後の成長を大いに期待したい（杉山 茂）

法大 33（14－4 19－3）7 北海道大

前日初の1勝をあげて気をよくしている北大は先制された1点を4分高橋のゲットで返すなど立ちあがり好調にみえたが、時間の経過とともに法大・正本、川島、石井らの鋭いタテ攻撃にゴールを割られ、前半なかばで13－1とひらき勝負が決まってしまった（杉山）

慶大 27（12－10 15－8）18 明星大

上り坂の明星大のプレーが注目されたが、やはり慶大攻守に一日の長があり、11点をたたき出した古村の巧技とうまいフォーメーシ

V

ョンプレーで順当勝ちした。

勝った慶大も明星大もディフェンス力の強化が今後の課題のように思う（村田　弘）

中　大 17（5―10, 12―5）15 明　大

明大の攻撃陣がチャンスをうまく活かし確実に得点を重ね後半3分11―6とした時はそのまま押し切るかにみえたが、奮起した中大は喜田、松崎、宮崎の活躍で追いあげ後半25分15―15とタイ。このあと27分の7MTを佐野が決めて逆転、29分松崎がダメ押し点をあげて鮮やかな勝ち星をあげた。攻撃陣の粘りも賞されるが、後半なかばからみせたGK竹下の美技も大きな勝因である（片瀬喜代次）

東京教大 30（16―7, 14―7）14 東北学院大

地方勢は大会の零囲気にのまれるのか、どうも持ちまえの力を存分に発揮できない。この試合の東北学院大もそうだ。前半18分11―1とリードされたあとからようやくチャンスをつかみ反撃しているのだが、それではもう遅い。

大型選手を揃えた教大の攻撃陣は力も技もあり強力だが、東北学院大の試合運びが巧ければこうまで差はつかないハズだ。個人で、10点をあげた教大・川島、9点をたたきだした東北学院・新田のシャープな動きが目立った（藤本強）

早　大 38（14―4, 24―4）8 立命館大

立ちあがり3―2とせりあったが、その後は、立命大の攻撃が早大のディフェンスを崩せずに終わったのに対し、早大はみごとな突進力で立命大の守備陣を割り着々と加点、一方的なゲームとした。（片瀬）

立　大 32（16―4, 16―7）11 大阪経大

進境を伝えられる大阪経大に注目が集まった。立ちあがり1分西村2分水野がゲット、2―0とした時は〝その先〟を楽しませたが、時間とともに立大の定評あるコンビネーションプレーが威力を発揮、前半15分には10―2と差がついてしまった。

散発的ではあったが山路、山下を軸にした大経大の攻撃はみるべきものがあった。タテの変化とクイックプレーがもう少し欲しい。これは大経大に限らず関西勢共通の課題ではなかろうか（杉山）

▽準々決勝

芝浦工大 21（9―4, 12―7）11 日体大

【芝浦】	得		【日体】	得
山村	0	GK	加藤	0
高橋	0	GK	本田	0
竹内	2	FP	神谷	2
近森	4		福井	2
小林	4		高橋菊	0
村上	2		樫塚	3
山田	3		早川	3
山中	0	主審（佐野）	大宮	0
明石	2		高橋益	0
白神	0		瀬島	0
高鍬	4		森	1

11（0）7MT（1）21

勝負をあまりにも意識しすぎ前半からエキサイト。ラフプレーが多く、両校とも名門の名に恥じる試合ぶりであった。おたがいにフェア・プレーを心がけねば〝王座〟に返り咲くことは出来ない。反省して欲しいものだ。

試合は日体大のリードで進められたが、4―4のタイから、芝工大は近森を中心に次第にスピードのある攻撃をみせ試合のペースを握った。日体大は中盤での当りがなく、やすやすと中央を突破され失点、また攻めてもムダなシュートが多く、芝工大にみすみすボールを与えていたのはまずかった。

後半になっても日体大は相手ディフェンスの崩れを待たずシュートして自滅してしまった。（佐野和夫）

法　大 20（8―9, 12―7）16 慶　大

【法政】	得		【慶応】	得
関口	0	GK	山田	0
正本	4	FP	古村	4
大山	2		川上	5
川島	2		峰村	1
石井	7		田中	3
堀江	0		小椋	2
宇佐田	0	主審（由利）	植村	1
五十嵐	0		尾崎	0
柳	0			
武井	5			

16（0）7MT（2）20

先手をとられつづけていた法大は後半23分14―15から一気に6点をうばって逆転勝ちした。

法大の攻撃陣ははじめからよく動いていたが慶大ディフェンスの当りとGK山田の再三の好守にシュートを防がれたのが苦戦の因だった。終盤、相手の疲れに乗じて爆発させた速攻は鮮やかだった。

慶大は春より粘りが出て来たものの試合運びが甘く、この試合も小さなミスが目立った（杉山）

東京教大 22（6―8, 16―7）15 中　大

【教大】	得		【中大】	得
上野	0	GK	竹下	0
川島	5	FP	山中	1
小山	0		城	4
大西	2		梅崎	0
平岡	6		森山	2
畑	1		佐野	1
古屋	0	主審（村田）	喜田	7
稲垣	0		長広	0
浅野	8		池内	0
斉藤	0		堀切	0

15（2）7MT（1）22

春の関東学生では1点差で中大が勝っている。その余裕からか中大は立ちあがり0―4とリードされながら焦らず、じっくりと点を返して27分6―6のタイ。期待通りの好試合になった。さらに中大は29分、29分30秒（7MT）に喜田が得点して逆にリードを奪い前半を終わった。

後半、教大の迫いあげから一進一退となり予断を許さなかったが20分14―14とふり出しに戻ってからは教大のペースとなり、中大ディフェンスに粘りがなくなったところを浅野、平岡が交互にシュートを決めて8点を奪い、中大の反撃を28分の7MT1点におさえて快勝した。

柔いグランド（小雨）に足をとられる場面もあったが大会屈指の好ゲームといえる（村田）

立　大 20（12―4, 8―12）17 早　大

【立教】	得		【早大】	得
川口	0	GK	綿貫	0
天野	0	GK	山本	0
木野	4	FP	水口	3
北村	1		籏野	2
北井	0		伊藤	0
東	4		朝日	0
野田	5		小島	0
小野口	6	主審（片瀬）	鈴木博	5
戸田	0		森田	1
倉前	0		鈴木幸	6
加藤	0		杉山	0

17（2）7MT（1）20

早大の食いさがりで盛りあがりのある試合となった。

前半の立大は秀れた〝組織力〟をふるい。多彩なプレーから得点を重ねた。このリードに早大は、ずるずると押し切られるのではないかと思われたが、後半5分以後立大の攻撃テンポのわずかな崩れのスキに、持ち前の体力と粘りのあるプレーで迫いあげ、後半22分には16―14と2点差につめて、スタンドを湧かせた。

しかし、立大はこのあと、再び調子をとりもどし、木野、北村の好リードから小野口、東がうまく得点、28分20―15とはなして逃げこんだ。

早大のすばらしいファイトが賞されるが、巧者をそろえた立大が後半10分から12分間も無得点だったのはめずらしい（片瀬）

法大善戦す

▽同準決勝

芝浦工大 21（13—6, 8—9）15 法政大

得	【芝浦】		【法政】	得
0	山村	GK	関口	0
0	高橋	GK	金	0
1	竹内	FP	正本	6
8	近森	FP	大山	2
3	小林	FP	川島	0
2	村上	FP	石井	4
5	山田	FP	堀江	0
0	山中	FP	宇佐田	0
1	明石	FP	五十嵐	0
0	白神	FP	柳	0
1	高鍬	FP	武井	3
21	（3）	7MT（主審 片瀬）	（1）	15

〔後記〕 法大のファイトがみごとな先制攻撃となって実を結び、もつれた試合展開をみせた。

法政は3—2から13分武井13分武井13分30秒石井14分正本と、芝浦工大のわずかなスキをついて、みごとな速攻から3点を連取、6—2と優位に立った。

芝浦もそのあと、チャンスを確実に活かして点差をつめ、7—9から24分、28分に得た7MTを近森が決めて1点差に迫いあげて前半を終わった。

後半、3分芝浦は近森のゲットで同点9—9。こうなるとペースは芝浦のもの。山田、小林の活躍でリードを重ねそのまま押し切った。山田の柔軟なプレーは光った。

法政は、攻撃が尻つぼみになって惜敗したが、持てる力を存分に発揮して、まっ正面から優勝候補に対決した気力は賞されよう（荒川清美）

立大圧倒的強味

立教大 30（16—7, 14—7）14 東京教大

得	【立教】		【教大】	得
0	川口	GK	上野	0
0	天野	GK	水藤	0
3	木野	FP	川島	0
4	北村	FP	小山	0
4	北井	FP	大西	6
3	東	FP	平岡	5
5	野田	FP	畑	2
5	小野口	FP	古屋	0
0	戸田	FP	稲垣	0
2	倉前	FP	浅野	1
4	有永	FP	斉藤	0
30	（4）	7MT（主審 村田）	（2）	14

〔後記〕 長身選手を揃え、久々にスケールの大きい布陣の教大がどこまでその持ち味を発揮するか興味をもたれたが、結果的には、立大の秀れたチームプレーにゆさぶられ大差がついてしまった。

前半5分で4—1とリードされた教大は、6分畑、7分平岡のゲットで1点差とし、反撃への期待を高めたが立大もすぐ木野が2点。とられたらすぐとり返す立大の気迫はまことにみごとだ。他校が、局面的には互角に試合を進めながら結局立教から勝利を奪えないのは、こうした面で〃差〃があるからではなかろうか。

このあと一進一退からじわじわ立教が教大のディフエンスを圧迫しはじめ、前半25分でダブル・スコアとなり勝敗の興味はうすれた。

教大も大西・平岡のダイナミックなプレーと浅野の巧技などで健斗したが、やはり立大選手の全員が身につけている攻防両面でのボール処理技術には一歩ゆずらざるを得なかった。緩急をわきまえたチームプレーでも立大に軍配があがった（杉山）

△男子3位決定戦

東京教大 25（12—11, 13—4）15 法大

得	【教大】		【法政】	得
0	上野	GK	関口	0
0	水藤	GK	金	0
4	川島	FP	正本	6
0	小山	FP	大山	0
4	大西	FP	川島	3
2	平岡	FP	石井	3
4	畑	FP	堀江	2
4	古屋	FP	宇佐田	0
2	稲埋	FP	五十嵐	0
1	浅野	FP	柳	0
0	斉藤	FP	武井	0
25	（1）	7MT（主審 片瀬）	（2）	15

法政に前日（準決勝・芝工大戦）の元気がなく、教大のペースで終始、終盤はメンバーを若手に切り替える余裕ぶりだった。

勝った教大も、大西、平岡のシュートの成否が、そのまま、チームの〃気分〃につながっているような印象をうける。

波に乗った時はよいが、単調に流れはじめるとたんに低いレベルになる。この点が是正されれば、〃力〃があるだけに秋の関東学生リーグの上位戦はさらに予断を許さぬものになるのではなかろうか（杉山）

▽同決勝

立大多彩な攻撃で勝つ

立大 24（14—13, 10—9）22 芝工大

得	【立教大学】		【芝浦工大】	得
0	川口	GK	山村	0
0	天野	GK	高橋	0
6	木野	FP	竹内	3
3	北村	FP	近森	4
2	北井	FP	小林	1
5	東	FP	村上	2
4	野田	FP	山田	6
3	小野口	FP	山中	0
0	戸田	FP	明石	2
0	倉前	FP	白神	2
1	有永	FP	高鍬	2
24	（3）	7MT（主審 岡前）	（2）	22

開始直後、両軍とも優勝戦を意識してか、堅さがとれず、凡ミスとボーンヘッドをくりかえした。特に、ゴールスローを再度カットされ、得点に結びつけられるなど、優勝戦にふさわしくない光景も見られた。

時間がたつにつれ、両軍とも持味をいかした攻防をくりひろげたが、ほとんど立教が一点先行し、それに芝工大がおいつくという試合経過をたどった。2点離れたのは前半終るまぎわのわずか1分であり、息づまる接戦を展開し1点差で前半を終了した。

後半開始後は、立教はポストプレーを主として、芝工大は山田を中心とした左サイドの攻撃がよく決り、緊迫した試合が続いたが、40分を過ぎるころから、立教はポストプレーに加えて、木野、東のロングシュート、更には右サイドからのシュートと多彩な攻撃で、得点を重ね、一時は5点差になり、期待の新人有永を登場させ、出場後数秒で1点を決めさせるという鮮やかなデビューを飾らせるなど余裕のあるところを見せた。終了間際、芝浦工大は速攻で追いあげたが力及ばなかった。

両軍とも20点を越える得点を挙げ、面白い試合を展開したが、現在日本のハンドボール界のもっとも緊急な課題であるディフエンスの強化は残念ながら見られなかった。現在の大学のトップレベルにある両チームとも、ディフエンスの力を強めることが当面の課題となろう（藤本）

女子

▽予選リーグA組（4校）

日体大（関東）22（15—0, 7—0）0 松阪女短大（東海）
中京女大（東海）9（7—1, 2—0）1 日女体大（関東）
中京女大 23（11—3, 12—3）6 松阪女短大
日体大 23（13—1, 10—1）2 日女体大
日体大 12（9—1, 3—3）4 中京女大

（この記録は決勝リーグに適用）

前半は完全に中京女大のペース。速いパスワークから金山、湯浅の好ゲットと7MTで3—1とリードした。しかし日体大は前半終了まぎわからようやく攻撃のテンポが整い3—3と追いつき、後半はその調子を持続。当りのなく

なった中京女大のディフェンスを速攻で突破して大差をつけた。
　中京女大は後半4−3、5−3とされたあたりから、自分のペースを見失ったのがひびいた(杉山)

日女体大 15（8−2、7−3）5 松阪女短大

【順位】①日体大3勝②中京女大2勝1敗＝以上決勝リーグ出場③日女体大④松阪女短大

▽同B組（3校）

東女体大（関東） 28（13−0、15−2）2 東京学芸大（関東）

中京大（東海） 17（8−0、9−1）1 東京学芸大

東女体大 12（6−2、6−3）5 中京大

（この記録は決勝リーグに適用）
　実力は互角だったが、東女体大がゴール前でのびのびとしていたのに対し、中京は動きが固くミスが目立った。
　その差がスコアになって現れたような感じだ。
　主導権はたえず東女体大が握っていたが、中京大も2−4、3−6と再度反撃ムード。しかし3−6のあと連続4失点したのが致命傷になった（佐野）

【順位】①東女体大2勝②中京大1勝1敗＝以上決勝リーグ出場③東京学芸大

▽女子決勝リーグ

日体大 11（1−4、10−2）6 中京女

　前半の中京大はすばらしい出来だった。

【日体】	得		【中京】	得
石川	0	GK	川崎	0
小川	0	GK	西岡	0
北口	4	FP	伊藤	0
強矢	2	FP	上野	1
小野塚	0	FP	山本	1
川口	0	FP	稲葉	0
原	3	FP	砂浜	1
隈	1	FP	森	2
白土	0	FP	黒丸	0
今井	1	FP	石山	0
立林	0	FP	安田	1
11	(0)	7MT	(0)	6

（主審 佐野）

　打つ手々がすべて当った感じで7分森、9分安田16分山本、18分上野とチャンスをうまく活かして4−0とリード。日体大は完全にテンポをくずし19分30秒隈がどうにか1点を返したにとどまった。
　ところが、後半になると、中京大は、リードを守ろうとする気が先に立ったせいか、攻防ともにプレーがちぢまり、そのスキを原、隈を軸にした日体大につかれエース北口の豪快なシュートに得点を許し、後半7分4−4の同点。一進一退のあと日体は、疲れのみえた中京陣をおそい、10分以後連続6点をたたき出して、最後は〝快勝〟となった。中京大としては、後半のくずれがくやまれよう。劣勢をはね返そうとした日体大原、隈両ベテランの気力あふれたプレーが光った（杉山）

東女体大 3（2−2、1−0）2 中京女大

　成長いちぢるしい中京女は、立ちあがりテンポのととわぬ東女体大のディフェンスをゆさぶって巧者金山、強肩湯浅が好シュート2−0とリードした。しかし、その後は、相手ディフェンスのくずれを待ちすぎて、自らシュートチャンスを逃す拙攻で、ついに最後まで得点を加えることができなかった。

【東女】	得		【中女】	得
千明	0	GK	北岡	0
藤森	0	GK		
岡本	1	FP	進士	0
山地	0	FP	小松	0
浅見	0	FP	野村	1
熊谷	1	FP	金山	0
川端	0	FP	都築	1
大竹	0	FP	湯浅	0
大谷	1	FP	井上	0
中島	0	FP	鈴木	0
谷口	0	FP	国沢	0
3	(1)	7MT	(0)	2

（主審 由利）

　これに対して東女体大は15分7MT（熊谷）19分岡本のゲットで2−2のタイとし、後半16分大谷のシュートが〝決勝点〟になった。
　後半は、まったく攻めあいのない凡戦だった（荒川）

中京大 11（5−1、6−3）4 中京女大

【中京】	得		【中女】	得
川崎	0	GK	中島	0
西岡	0	GK	北岡	0
伊藤	0	FP	進士	0
上野	4	FP	小松	0
山本	0	FP	野村	0
稲葉	0	FP	金山	1
砂浜	2	FP	都築	0
森	1	FP	湯浅	2
黒丸	1	FP	井上	0
石山	0	FP	鈴木	0
安田	3	FP	国沢	1
11	(1)	7MT	(0)	4

（主審 由利）

　東海のライバル同士の一戦も、ともに2敗のあとだけに気迫がなくスピードに優った中京大が、当りのない中京女デイフェンスをやつぎばやにくずして、勝負を決めた。
　盛りあがりのない経過の中で中京女の新人GK北岡（高知西高）の好プレーが目立った（藤本）

日体大押しきる

日体大 10（4−3、6−4）7 東女体大

【日体大】	得		【東女体大】	得
石川	0	GK	千明	0
小川	0	GK	藤森	0
北口	2	FP	岡本	0
強矢	0	FP	山地	0
綱川	1	FP	浅見	2
川口	4	FP	熊谷	4
原	1	FP	川端	1
隈	0	FP	大竹	0
白土	0	FP	大谷	0
今井	2	FP	中島	0
立林	0	FP	谷口	0
10	(1)	7MT	(1)	7

（主審 佐野）

　前半日体大は速攻を中心とした攻撃で、着々得点を重ね、4−1とリードしたが、それ以後、得点がとまり、逆に東女体大のサイドからの攻撃に点をとられ、前半終了直前7Mを決められ1点差で前半を終了した。日体大は北口のロングがいずれもバーにぶつかる不運もあり、それ以後ロングをやめいたずらにポストにボールをとおし、攻撃の芽をつぶしていた。東女体大も中央からの攻撃を主用していたが、よく攻撃が成功していた右サイドの攻撃を意図的に使用すべきであった。
　後半開始直後、東女体大の速攻が続いたが、同点にするのがやっとで、その後、日体大の速攻と、前半、苦戦の因になったポストプレーが川口を軸にしてよく決った。
　東女体大は良く追いかけたが、暑さにスタミナを消耗し、そのスキをつかれて、速攻、ポストプレーを許し、勝機を逸っしてしまった。
　春のリーグ戦であるいはと思わせ、東女体大のくいさがりが期待されたが、日体大は危げなく、逃げきった。北口のロングがもうすこし、確実さを加えれば楽に試合を運べたであろう。
　日体大は学生チーム相手の連勝記録を58とのばした（藤本）
　女子順位　①日体大3勝、②東女体大2勝1敗、③中京大1勝2敗、④中京女大3敗

女子決勝リーグ

	日	東	中	中女	勝	負
①日体大	×	○	○	(○)	3	0
②東女体	●	×	(○)	○	2	1
③中京大	●	(●)	×	○	1	2
④中京女	(●)	●	●	×	0	3

（ ）内は予選リーグの勝敗

激戦必至の全日本総合女子

男子は関東学生勢が有力

第19回全日本総合選手権は8月22日から5日間福井県高浜市で、第10回全日本教職員選手権は8月14日から3日間神戸市中央体育館で開かれるが、このほどその組み合せが次のように決った。

両大会とも、トップチームが勢揃い、最高峰の大会にふさわしい激戦が期待されているが、総合男子では関東学生勢、同女子では実業団五強と日体大、大阪イーグルスを中心にした優勝争いとみられている。○内数字は出場回数。

〔全日本総合展望・男子〕 学生系14、実業団7、教員4、クラブ6が出場するが、質的にも学生系が他を圧しそうだ。なかでも全立大、芝浦工大、早大、日体大らの評判が高く大崎電気、大阪イーグルス、埼玉教員、中京クがこれにどう対抗するかが焦点になろう。

2連勝を狙う全立大は、7月の全日本学生で優勝した木野、北村、野田らの現役が主力で、この大会でも多彩な攻守を誇りそうだ。

対抗の芝浦工大は、準々決勝の同志社大（又は東京教大）準決勝の大崎電気または日体大の挑戦をどうかわすかが問題だが、やはり地力は全立大につぐものがある。

ダークホースとしては関大、九州選手権1位の熊本教員、常盤工業らがあげられる。10年連続出場の住友化学は苦しいクジ運。

〔女子〕 決勝トーナメントに進むのはA組大崎電気、B組田村紡、C組大洋デパートがまず間違いないところで、D組は愛知紡に日体大がどう食い下るか一つの興味。

ベスト・フォァによる優勝争いは予断を許さぬが、D組からどこが出ても大崎の決勝進出は固そうだ。大洋—田村紡は、春の九州での対戦では田村紡が3連勝しているが、大洋も力をあげて来ており、このカードが〝事実上の決勝戦〟という声が高い。

ともに、豊かなスピードと、スケールの大きい攻撃を誇っており、好試合必至。予戦段階で波乱が起きるとすれば三菱鉛筆の健斗以外になさそうだが、自信にあふれた田村紡をくずすことは難しいのではないだろうか。

いずれにせよトップチームの実力は伯仲しており、今シーズン初の対決だけに、各試合とも〝1点〟が勝負を分ける微妙な展開をとりそうだ。（編集部）

男子

全　立　大（推薦）⑪
日本鋼管福山（中国）①
大阪経大（学連）②
本田技研（実連）⑤
東北学院大（東北）⑥
埼玉教員（関東）②
中大（学連）⑩
早大（学連）⑤
奈良ク（近畿）⑤
宗形製作所（実連）③
高知ク（四国）①
甲南大（学連）④
福井教員（福井）①
中京ク（東海）①
大阪イーグルス（推薦）④
大崎電気（推薦）⑧
関西大（学連）④
名古屋大（学連）①
氷見ク（北信越）②
住友化学（実連）⑩
熊本教員（九州）②
自衛隊勝田（埼玉）①
日体大（学連）⑬
同志社大（推薦）④
常盤工業（実連）④
東京教大（学連）⑥
佐野工ク（近畿）①
東北大（学連）②
福井大（福井）①
清商ク（東海）③
芝浦工大（推薦）⑮

女子

▽予選リーグ
A組　大崎電気（埼玉）⑦ 有磯高（富山）③ ブラザー工業（愛知）① 宗形製作所（大阪）①
B組　田村紡（三重）⑥ 小松市女高ＯＧ（石川）① 三菱鉛筆（神奈川）② 美和ク（兵庫尼高ＯＧ）④
C組　大洋デパート（熊本）⑦ 日女体大（東京）⑦清水女高（静岡）⑧ 福井ク（福井）①
D組　日体大（東京）⑮ 愛知紡（愛知）⑪ 福井商（福井）① 東京重機（東京）⑤

△決勝トーナメント1回戦（準決勝）
①A組　1位—D組1位
②B組　1位—C組1位

△決勝　①の勝者—②の勝者

大阪イー埼玉の争いか

全日本教職員選手権

〔展望〕 6連勝を狙う大阪イーグルスは新人・ベテランの力をうまくミックスさせ、今年も優勝候補一番手。西独との対戦も決まり、張り切っている。

対抗は国体を控え、上り調子の埼玉教員か。その秀れた攻撃力を大阪イーグルス・村田監督も警戒している。

決勝で両者が対決すると見応えのある好試合となろう。しかし大阪イーグルスは山口教員団、福岡教員ク、埼玉教員もスワロー兵庫、岐阜教員クら同パートに強豪がおり予断を許せない。

勝負はともかく、というと誤解があるが、指導者によるチーム同士らしい好内容のゲームを大いに期待したい（編集部）

大阪イーグルス（大阪）
山口県教員団（山口）
三重教員団（三重）
京都教員クラブ（京都）
栃木教員クラブ（栃木）
興東クラブ（奈良）
愛媛教員（愛媛）
全茨城（茨城）
新潟教員（新潟）
福岡教員クラブ（福岡）

神奈川教員団（神奈川）
福井教員（福井）
埼玉教員（埼玉）
愛知教員クラブ（愛知）
スワロー兵庫（兵庫）
大阪市学校体育会（大阪）
長崎教員（長崎）
香川県教員会（香川）
桑朋会（東京）
岐阜教員（岐阜）

3位決定

新鋭の躍進で男女とも混戦

第18回全日本高校選手権近ずく

第18回全日本高校選手権大会は8月2日から8日までの7日間和歌山県和歌山市の桐蔭高グランド（5面）を会場に炎天下、若さにあふれた熱戦をくりひろげる。
大会の組み合せは7月7日和歌山県庁で行われたが、今年は各地の予選で波乱があいつぎ本大会も予断を許さぬ混戦となりそうだ。
高体連ハンドボール部からの資料をもとに、大会を展望してみよう。（編集部）

男子

参加52校。第1回（昭25）にエントリー54校という記録があるが、予選制がしかれてからは初めての数字だ。

それだけに、この大会を勝ち抜くことは、技術ばかりでなく、コンデイションの調整、長丁場を乗り切るスタミナが大きなポイントになってくる。

しかも、今年は名門新居浜工（愛媛）が予選で姿を消したのをはじめ古豪チームが新進校の躍進におさえられる番狂せが続出、この大会でも平穏な展開がみられるといい切ることはまず出来ない情勢である。

組合せをみていくと――

Aゾーンでは2連覇を狙う明星（東京・推せん）と名城大附属（愛知）が注目される。

明星の攻撃力は今年も相変らず強力。むしろ昨年より安定感があるといわれるほどだ。

名城大附属は一昨年初出場で2位となり話題をまいたが、今年もスケールは大きい。桜台（愛知）と県大会では14―15と接戦しており明星も油断できまい。ほかに浦和市立（埼玉）上田（長野）桐蔭（和歌山）も手強い。

Bゾーンは激戦。小倉工（福岡）、清水商（静岡）、岩国工（山口）、洛星（京都）、中大附属（東京）、三国丘（大阪）、熊本市商（熊本）、らはいずれも全国屈指の激戦地を勝ち抜いて来ただけに地力があり、坂出工（香川）、塩山商（山梨）の実力もあなどれぬ。

関係者7人にこのゾーンの勝者をたずねたら中大附属3名、清水商2名、岩国工、熊本市商各1名と割れた。

Cゾーンはダークホースが並んだ。なかでも九州1位の鶴崎工（大分）の試合ぶりは期待される。

佐野工（大阪）、麻生（茨城）、神代（東京）と東西のホープに氷見（富山）、横浜東（神奈川）らが激しくからみあいそうである。

Dゾーンは桜台（愛知）の呼び声が高いが盛岡一（岩手）の粘り地元ではり切る和歌山商（和歌山）、鹿児島工（鹿児島）の充実もあなどれぬ。男女出場の小禄（沖縄）もレベルアップが伝えられている。

予想通りに進めば明星―中大附属、鶴崎工―桜台の準決勝となり2年連続明星―桜台の対決の色が濃い。

女子

静岡城北（静岡）、水海道二（茨城）らが県予選で敗退、実力一といわれた熊本代表・菊池農も、6月の九州高校で大分東（大分）にひねられている。

しかも参加50校のレベルはほとんど同じと伝えられ、男子よりもはるかに乱戦模様を描き出しそうである。

Aゾーンでは2連覇めざす秋田和洋女（秋田・推せん）、菊池農、進境いちぢるしい北海道のホープ室蘭商が並び緒戦からまずもつれそうな気配。ここから勝ち進んだものと湧谷（宮城）の準々決勝とみられる。

Bゾーンでは中国ナンバーワン山陽女（広島）が有力だが夙川（しゆくがわ・兵庫）、高蔵女商（愛知）貴和（和歌山）、小諸商（長野）の新鋭群も上り調子。

Cゾーンでは栃木女（栃木）―吉原（静岡）の勝者ということになろうか。

地元の利を活かすようだと和歌山商（和歌山）にもチャンスがある。

Dゾーンは強豪が並んだ。前回2位の花巻南（岩手）、大分東（大分）、関東1位の深谷女（埼玉）名古屋女商（愛知）、寝屋川（大阪）明善（福岡）らだ。

なかでも強豪を連破して九州高校に初優勝した大分東の評判は高い。

準決勝は菊池農―山陽女、栃木

全日本高校最近5年間のベスト8（地域順。太字は優勝校）

【男子】

年								
昭37.	大石田	神代	清水東	**桜台**	中京商	寝屋川	新居浜工	博多工
昭38.	盛岡一	桐生高	**桜台**	中京商	伏見工	寝屋川	修道	徳山
昭39.	**明星**	清水商	桜台	加納	**堺工**	徳山	新居浜工	熊本市高
昭40.	函館東	明星	清水商	**桜台**	名城大附	佐野工	三国丘	新居浜工
昭41.	湯沢	上田	**明星**	桜台	名城大附	洛星	佐野工	熊本市商

【女子】

年								
昭37.	秋田和洋	水海道二	**静岡城北**	半田	稲沢	京都女	井原	菊池農
昭38.	水海道二	栃木女	**静岡城北**	半田	山陽女	徳山	新居浜東	熊本市立
昭39.	深谷女	**栃木女**	静岡城北	半田	新居浜東	明善	大分東	菊池農
昭40.	栃木女	**静岡城北**	加納	山陽女	徳山	新居浜西	熊本市立	菊池農
昭41.	**秋田和洋**	花巻南	栃木女	静岡城北	夙川	山陽女	新居浜西	大分東

女―大分東とみる人が多いがそういくかどうか。

ただし、どこが出て来てもC又はDゾーンの勝者が〝優勝校〟になるだろう、というみかたは一致している。

徳永陸繁高体連ハンドボール部副部長の話『今年は予選の時から激しいせりあいがみられ、新旧交代の行われた地区が多い。

それだけに、本大会の予想もたてにくいのだが、炎天下の連戦を勝ち進むには選手自身の精神的な充実度が大きなポイントになってくるだろう。

最後まで故障者を出すか出さぬかも勝負の明暗を分けることになるのではなかろうか。

近年、高校選手の体格の発達はめざましいものがあり、その勝れた体力を利して、スピード豊かなプレーが〝争点〟になっているのはよい傾向だと思う。

スピードのある高度な技術こそ高校ハンドボールのめざす道であり、技巧にはしることは好ましくない。

高校生らしい堂々の勝負がくりひろげられることを期待し、またそれを信じている』

前哨戦でも波乱

全日本高校選手権のトライアルゲーム――各ブロック高校選手権大会は各地で開かれているが、強豪めじろおしの九州では男子は鶴崎工（大分）、女子では大分東（大分）と大分勢が快勝した。女子の菊池農（熊本）は準決勝で大分東に敗れた。

実力伯仲の近畿は、男子では佐野工（大阪）、洛星（京都）、桐蔭（和歌山）ら全国大会出場組が上位に進み、洛星が優勝。女子も京都の精華が大谷（大阪、夙川（兵庫）、住吉（大阪）らをおさえた。

注目の関東は、男子は全国2連勝を狙う明星をはじめ東京勢が上位3校を独占、女子は深谷女（埼玉）が優勝、栃木女は3位だった。北信越では男・上田、女・小諸商と長野勢が、中国は女子が山陽女（広島）が勝ち、男子は宇部工（山口）が勝ったが予戦で敗退している。

北海道は紋別北（男）と室蘭商（女）、四国は新居浜工（男）と新居浜商（女）がそれぞれトップ。

男子

明星（東京）
城北（徳島）
岐山（岐阜）
浦和市立（埼玉）
鯵ヶ沢（青森）
上田（長野）
関東学院（神奈川）
名城大附（愛知）
滝川（兵庫）
古川工（宮城）
紋別北（北海道）
桐蔭（和歌山）
湯沢（秋田）
坂出工（香川）
高田（三重）
小倉工（福岡）
足利工（栃木）
清水商（静岡）
大石田（山形）
添上（奈良）
岩国工（山口）
洛星（京都）
中大附（東京）
塩山商（山梨）
三国丘（大阪）
熊本市商（熊本）

―?―

佐野工（大阪）
麻生（茨城）
倉敷商（岡山）
高知追手前（高知）
都城工（宮崎）
氷見（富山）
国加（長崎）
神代（東京）
横浜東（神奈川）
松江工（島根）
鶴崎工（大分）
前橋商（群馬）
金工大附（石川）
和歌山商（和歌山）
佐原（千葉）
小禄（沖縄）
聖光学工（福島）
広（広島）
鹿児島工（鹿児島）
柏崎工（新潟）
若狭（福井）
境港工（鳥取）
松山北（愛媛）
高島（滋賀）
盛岡一（岩手）
桜台（愛知）

女子

秋田和洋（秋田）
菊地農（熊本）
室蘭商（北海道）
都二商（東京）
小松市女（石川）
池田（徳島）
加治木（鹿児島）
大垣南（岐阜）
都城泉丘（宮崎）
昭和学院（千葉）
生駒（奈良）
湧谷（宮城）
前橋市女（群馬）
松江市女（島根）
高知西（高知）
貴和（和歌山）
神崎農（佐賀）
高蔵女商（愛知）
小高農（福島）
小諸商（長野）
明徳商（京都）
川崎市立（神奈川）
山陽女（広島）
住吉学園（大阪）
夙川学院（兵庫）

―?―

栃木女（栃木）
米沢女（山形）
三本松（香川）
吉原（静岡）
高岡女（富山）
福井商（福井）
日川（山梨）
高島（滋賀）
小禄（沖縄）
真備（岡山）
新居浜商（愛媛）
和歌山商（和歌山）
六郷（秋田）
四日市（三重）
徳山（山口）
名女商（愛知）
柏崎常盤（新潟）
麻生（茨城）
大分東（大分）
島原農（長崎）
桜水商（東京）
寝谷川（大阪）
深谷女（埼玉）
明善（福岡）
花巻南（岩手）

全日本高校予選主要記録

盛夏を彩る若人の祭典・第18回全日本高校選手権は8月2日から和歌山で開かれるが、この大会の伝統を築き、球界の底辺を支えているのは全国47地区の予選会の激闘ではなかろうか。

各地に展開された若さと情熱の戦いは、全国大会のそれに優るともおとらない。

本誌では、各県高体連の協力でその主要記録を掲載することにした。

今年の特色は、新進校の抬頭・躍進で、各地で波乱があいついだことと一般の関心が高まり、活況のうちに予選会が進められたことであろう。特に山口ではTV、山形ではラジオ（何れもNHK）でその代表決定戦の模様が中継されるなど地元の期待を集めた。＝太字は代表校。（カット写真は初出場に喜ぶ石川代表・金沢工大附高チーム）

北海道

▼男子準々決勝

紋別北 22—19 北見工
室蘭清水丘 16—9 札幌商
紋別南 24—8 札幌月寒
函館東 23—9 室蘭東

▽同準決勝

紋別北 8—6 函館東
紋別南 19—10 室蘭清水丘

▽同決勝

紋別北 13—10 紋別南

▼女子準々決勝

室蘭清水丘 20—2 稚内大谷
函館遺愛 16—4 登別
室蘭商 15—4 紋別北
紋別南 20—3 札幌月寒

▽同準決勝

紋別南 9—7 函館遺愛
室蘭商 15—5 室蘭清水丘

▽同決勝

室蘭商 14—7 紋別南

東北

▽……青森県（男子のみ）

男子・**鰺ケ沢**

▽……秋田県

男子・**湯沢**、女子・**六郷**

▽……岩手県（既報）

男子・**盛岡一**、女子・**花巻南**

▽……山形県

▼男子決勝リーグ

寒河江 12—6 新庄工
大石田 6—5 東根工
大石田 23—9 新庄工
寒河江 8—7 東根工
東根工 22—3 新庄工
大石田 7—5 寒河江

【順位】①**大石田**②寒河江③東根工④新庄工

▼女子決勝

米沢女 7—5 竹田女

▽……宮城県（一部既報）

▼男子準々決勝

古川工 13—11 仙台二
祇園寺 14—11 古川
塩釜 13—12 東北学院
仙台一 14—6 東北

▽同準決勝

仙台一 7—4 塩釜
古川工 17—11 祇園寺

▽同決勝

古川工 13—12 仙台一

▼女子準々決勝

古川女 13—2 宮城一女
古川商 12—11 祇園寺
宮城三女 6—5 宮城二女
涌谷（シード不戦）

▽同準決勝

涌谷 20—9 宮城三女
古川女 28—4 古川商

▽同決勝

涌谷 19—4 古川女

▽……福島県

男子・**聖光学院工**　女子・**小高農**

関東

▽……茨城県（既報）

男子・女子とも**麻生**

▽……埼玉県

▼男子決勝リーグ

浦和市立 25—7 大宮
朝霞 18—13 坂戸
浦和市立 20—9 坂戸
朝霞 18—14 大宮
坂戸 13—8 大宮
浦和市立 13—7 朝霞

【順位】①**浦和市立**②朝霞③坂戸④大宮

▼女子決勝リーグ

深谷女 8—4 浦和南
浦和市立 6—5 熊谷高
深谷女 11—3 浦和市立
熊谷商 13—5 浦和南
浦和南 7—4 浦和市立
深谷女 6（分）6 熊谷商

【順位】①**深谷女**②熊谷商③浦和南・浦和市立

▽……群馬県

▼男子準決勝リーグA組

富岡 17—3 桐生
甘楽農 20—9 桐生
富岡 25—9 甘楽農

▽同B組

前橋商 22—2 新町
新町 14—12 桐生工
前橋商 8—6 桐生工

▽同決勝

前橋商 12—7 富岡

▼女子準決勝リーグA組

前橋市女 12—9 富岡
富岡 16—2 高崎女
前橋市女 15—4 高崎女

▽同B組
桐生女 24－2 新町
高崎市女 6－5 桐生女
高崎市女 22－10 新町

▽同決勝
前橋市女 12－2 高崎市女

▽……栃木県

▼男子準々決勝
宇都宮工 16－6 石橋
足利商 28－4 烏山商
足利工 23－10 馬頭
国学院栃木 23－6 足利学院

▽同準決勝
国学院栃木 14－5 宇都宮工
足利工 13－7 足利商

▽同決勝
足利工 13－6 国学院栃木

▼女子1回戦（1試合）
国学院栃木 20－5 小山城南

▽同準決勝
足利女 11－8 国学院栃木
栃木女 25－2 馬頭

▽同決勝
栃木女 20－1 足利女

▽……千葉県

▼男子決勝
佐原 8－7 鶴舞

▼女子決勝
昭和学院 8－4 佐原女

▽……東京都

▼男子決勝リーグ
神代 28－6 関東
神代 14－9 中大附
関東 15－10 都立三商
中大附 33－4 都立三商
神代 17－10 都立三商
中大附 33－5 関東

【順位】①神代②中大附③関東④都立三商

▼女子決勝リーグ
都立二商 4－2 桜水商
神代 12－6 都立二商
桜水商 7－6 小平
小平 20－4 神代
都立二商 5－3 小平
桜水商 6－5 神代

【順位】①桜水商・都立二商③小平・神代

▽……神奈川県

▼男子準々決勝
法政二 23－11 川崎市工
関東学院 7－4 横浜商工
北陵 13－11 横浜市立南
横浜市立東 12－4 川和

▽同準決勝
関東学院 9－7 法政二
横浜市立東 16－10 北陵

▽同決勝
横浜市立東 12－4 関東学院

▼女子準々決勝
川崎市立 4－1 横浜市立東
平沼 3－1 北鎌倉
横浜市立南 7－4 立野
平塚江南 11－5 二俣川

▽同準決勝
川崎市立 19－3 平沼
平塚江南 6－5 横浜市立南

▽同決勝
川崎市立 8－4 平塚江南

▽……山梨県

▼男子準々決勝
甲府工 13－5 韮崎工
明誠 12－7 園芸
甲府南 10－9 日川
塩山商 27－3 都留

▽同準決勝
明誠 8－7 甲府工
塩山商 26－4 甲府南

▽同決勝
塩山商 32－6 明誠

▼女子準々決勝
日川 24－1 峡北
塩山商 8－4 甲府二
一商 9－7 園芸
山梨 21－2 甲府南

▽同準決勝
日川 8－7 山梨
一商 13－8 塩山商

▽同決勝
日川 10－9 一商

北信越

▽……長野県

▼男子決勝リーグ
屋代 11－6 北佐久農
上田 7－6 坂城
屋代 30－4 佐久
上田 14－6 北佐久農
坂城 31－5 佐久
上田 13－5 屋代
坂城 10－7 北佐久農
上田 25－11 佐久
屋代 14－11 坂城
北佐久農 11－8 佐久

【順位】①上田②屋代③坂城④北佐久農⑤佐久

▼女子決勝リーグ
小諸商 24－5 佐久
松本美須々丘 13－7 上田城南
小諸商 22－2 松本美須々丘
上田城南 11－2 佐久
小諸商 22－5 上田城南
佐久 7－3 松本美須々丘

【順位】①小諸商②上田城南③松本美須々ケ丘④佐久

▽……新潟県

▼男子準決勝
柏崎工 19－4 巻
明訓 12－11 柏崎

▽同決勝
柏崎工 18－7 明訓

▼女子決勝リーグ
柏崎常盤 7－4 巻
明訓 8－4 巻
柏崎常盤 10－5 明訓

【順位】①柏崎常盤②明訓③巻

▽……石川県

▼男子準々決勝
金工大附 4－3 金沢商
小松工 12（分）12 金沢市工
抽せんで小松工が準決勝進出
松任農 11－7 泉丘
県立工 18－7 松陵工

▽同準決勝
金工大附 10－9 小松工
県立工 15－6 松任農

▽同決勝
金工大附 13－6 県立工

▼女子準々決勝
松任 4－3 明徳
金沢商 不戦勝 珠洲農
羽咋・小松市女 }（シード不戦）

▽同準決勝
羽咋 16－7 松任
小松市女 5－4 金沢商

▽同決勝
小松市女 12－6 羽咋

▽……富山県

▼男子準々決勝
氷見 30－4 大沢野工
二上工 26－8 富山
高岡商 14－7 高岡東
小杉 17－10 富山工

▽同準決勝
氷見 16－5 二上工
小杉 20－11 高岡商

▽同決勝
氷見 11－6 小杉

▼女子準々決勝
有磯 17－4 富山北部
高岡女 10－0 伏木
富山女 16－2 八尾
小杉 10－4 高岡

▽同準決勝
高岡女 3－2 有磯
富山女 8－4 小杉

▽同決勝
高岡女 6－2 富山女

▽……福井県

▼男子準々決勝
敦賀工 11—4 藤島
福井商 20—7 武生商
羽水・若狭(シード不戦)
▽同準決勝
羽水 12—10 福井商
若狭 18—14 敦賀工
▽同決勝
若狭 7—6 羽水
▼女子1回戦(1試合)
武生商 5—1 羽水
▽同準々決勝
福井商 15—2 武生商
高志 11—7 藤島
▽同決勝
福井商 18—0 高志

東海

▽……静岡県

▼男子準々決勝
二俣 20—8 三島南
浜松南 15—9 静岡東
天竜林 15—11 沼津工
清水商 31—12 富士
▽同準決勝
浜松南 16—7 二俣
清水商 16—10 天竜林
▽同決勝
清水商 10—7 浜松南
▼女子準々決勝
清水女 14—4 御殿場
沼津女 8—7 清水西
静岡城北 9—4 清水商
吉原 18—1 二俣
▽同準決勝
清水女 11—6 沼津女
吉原 6—2 静岡城北
▽同決勝
吉原 9—8 清水女

▽……愛知県

▼男子決勝リーグ
桜台 18—10 愛知工
名城大附 14—8 中京
桜台 15—14 名城大附
中京 16—12 愛知工
名城大附 20—10 愛知工
桜台 20—11 中京
【順位】①桜台②名城大附③中京(旧・中京商)④愛知工
▼女子決勝リーグ
半田 8—3 国府
名女商 9—4 高蔵女商
名女商 8—5 半田
高蔵女商 15—4 国府
高蔵女高 11—6 半田
名女商 23—1 国府
【順位】①名女商②高蔵女商③半田④国府

▽……岐阜県

▼男子準々決勝
岐山 12—5 岐阜西工
益田 27—10 斐太
加納 19—9 岐阜南
不破 25—11 岐阜北
▽同準決勝
岐山 6—4 益田
加納 16—9 不破
▽同決勝
岐山 17—6 加納
▼女子準々決勝
大垣南 11—0 岐阜南
鶯谷 10—1 益田
加納 5—3 高山
本巣 7—0 養老女
▽同準決勝
大垣南 3—2 鶯谷
加納 5—3 本巣
▽同決勝
大垣南 8—3 加納

▽……三重県

▼男子予選リーグA組順位①四日市工②四日市商③四日市④海星
▽同B組順位①高田②津③津工
▽同決勝(AB1位対戦)
高田 10—7 四日市工
▼女子決勝リーグ
四日市 11—3 上野商
四日市 15—7 松阪女
上野商 24—11 松阪女
【順位】①四日市②上野商③松阪女

近畿

▽……滋賀県

男子・女子とも高島

▽……京都府(成績次号)

男子・洛星 女子・明徳商

▽……奈良県

▼男子1回戦(2試合)
東大寺 10—7 生駒
奈良 29—8 畝傍
▽同準決勝
東大寺 13—10 桜井商
添上 14—9 奈良
▽同決勝
添上 14—13 東大寺
▼女子準決勝
十津川 14—3 添上
生駒 24—1 郡山
▽同決勝
生駒 11—8 十津川

▽……大阪府(成績次号)

男子・佐野工・三国ケ丘
女子・寝屋川・住吉学園

▽……和歌山県

▼男子決勝リーグ
県和歌山商 9—6 桐蔭
那賀 8—3 御坊商工
桐蔭 13—4 那賀
県和歌山商 14—11 御坊商工
県和歌山商 8—7 那賀
桐蔭 10—6 御坊商工
【順位】①県和歌山商②桐蔭③那賀④御坊商工
▼女子決勝リーグ
貴和 6—5 御坊商工
県和歌山商 9—4 御坊商工
貴和 7—1 県和歌山商
【順位】①貴和②県和歌山商③御坊商工

▽……兵庫県

男子・滝川、女子・夙川学院

中国

▽……岡山県

▼男子準々決勝
倉敷商 19—7 邑久
倉敷工 15—5 金川
関西 9—3 岡山工
児島 10—9 玉野
▽同準決勝
倉敷商 18—9 関西
倉敷工 16—9 児島
▽同決勝
倉敷商 15—11 倉敷工
▼女子準々決勝
真備 10—3 西大寺
金川 10—7 津山商
井原 棄権 倉敷青陵
落合 12—1 津山
▽同準決勝
真備 13—2 金川
井原 7—3 落合
▽同決勝
真備 4—3 井原

▽……広島県

男子・広 女子・山陽女子

▽……山口県

男子・岩国工 女子・徳山

▽……島根県

▼男子準々決勝
飯南 9—8 附属農林
松江工 7—2 出雲農

松江南 9—7 江の川
浜田水田（シード不戦）
▽同準決勝
浜田水産 8—4 飯南
松江工 13—3 松江南
▽同決勝
松江工 6—4 浜田水産
▼**女子予選リーグA組順位①松江市女②浜田水産③出雲女**
▽**同B組順位①江の川②附属農林③浜田商**
▽同決勝（AB1位対戦）
松江市女 9—4 浜田商

▽……鳥取県（男子のみ）
▼**男子1回戦**（1試合）
倉吉産 18—11 日野産
▽同準決勝
境港工 11—8 境（B）
境 18—7 倉吉産
▽同決勝
境港工 7—6 境

四国

▽……香川県
▼**男子準々決勝**
坂出工 25—8 多度津水産
土庄 24—7 木田
香川 12—5 丸亀
三本松 5—3 高松一
▽同準決勝
坂出工 18—7 土庄
香川 10—4 三本松
▽同決勝
坂出工 15—10 香川
▼**男子準決勝**
三本松 16—2 高松女商
香川 8—7 観音寺商
▽同決勝
三本松 17—6 香川

▽……高知県
▼**男子準々決勝**
幡多農工 15—9 弘岡農
中芸 14—11 伊野商
高知西 30—3 中村
追手前 17—3 須崎工
▽同準決勝
中芸 15—12 幡多農工
追手前 12—9 高知西
▽同決勝
追手前 11—10 中芸
▼**女子決勝リーグ**
高岡 16—0 佐川
高岡 4—3 高知西
小津 9—6 高岡
高知西 9—5 小津
小津 10—3 佐川
高知西 18—0 佐川
【順位】①**高知西**（得点率〇・七七）②高岡（〇・六八）③小津（〇・五七）④佐川

▽……徳島県
男子・**城北**、女子・**池田**

▽……愛媛県
男子・**松山北**、女子・**新居浜商**

九州

▽……福岡県
▼**男子準々決勝**
小倉西 13—10 明善
八幡工 25—3 田川農林
博多工 13—7 久留米工
小倉工 17—6 田川工
▽同準決勝
小倉工 18—10 博多工
小倉西 13—12 八幡工
▽同決勝
小倉工 18—14 小倉西
▼**女子準々決勝**
明善 15—1 古賀
筑紫中央 13—2 中村学園
筑紫女学園 14—3 信愛
福岡女 6—5 室見ヶ丘
▽女子準決勝
明善 21—1 筑紫中央
筑紫女学園 9—6 福岡女
▽同決勝
明善 13—7 筑紫女学園

▽……長崎県
男子・**国加**、女子・**島原農**

▽……大分県
▼**男子決勝リーグ**
大分商 38—5 国東
大分商 16—12 大分東
鶴崎工 23—11 大分東
大分東 33—2 国東
鶴崎工 53—3 国東
鶴崎工 9—7 大分商
【順位】①**鶴崎工**②大分商③大分東④国東
▼**女子決勝リーグ**
臼杵 16—2 青山
大分東 12—4 大分商
大分東 28—2 玖珠農
臼杵 15—1 大分商
青山 9—2 玖珠農
大分商 3（分）3 玖珠農
臼杵 18—4 玖珠農
大分東 12—3 青山
青山 11—7 大分商
大分東 7—3 臼杵
【順位】①**大分東**②臼杵③青山④大分商⑤玖珠農

▽……宮崎県
男子・**都城工**、女子・**都城泉丘**

▽……佐賀県（女子のみ）
女子・**神埼農**

▽……鹿児島県
男子・**鹿児島工**、女子・**加治木**

▽……熊本県
▼**男子準々決勝**
済々黌 12—10 鎮西
熊本 21—10 水俣工
水俣 11—10 九州学院
熊本市商 26—6 熊本一工
▽同準決勝
熊本 13—10 済々黌
熊本市商 15—3 水俣
▽同決勝
熊本市商 6—5 熊本
▼**女子準々決勝**
菊池農 14—5 水俣
熊本女商 15—4 大江
熊本市立 23—5 天草
九州女学院 20—3 天草農
▽同準決勝
菊池農 17—7 熊本市立
九州女学院 18—6 熊本女商
▽同決勝
菊池農 6—5 九州女学院

▽……沖縄
▼**男子準々決勝**
那覇商 19—12 浦添
那覇 31—12 八農
沖縄工 22—15 北農
小禄 16—11 首里
▽同準決勝
那覇商 15—9 那覇
小禄 21—8 沖縄工
▽同決勝
小禄 16—13 那覇商
▼**女子準々決勝**
浦添 9—6 糸満
首里 13—10 興南
那覇商 14—4 沖縄
小禄 33—1 北農
▽同準決勝
首里 15—2 浦添
小禄 29—4 那覇商
▽決勝
小禄 13—3 首里

全日本高校選手権各地予選の総記録を掲載することは本誌の宿願でありましたが、今回はそれに一歩近づくため各県上位記録を収めました。来年からは完全掲載に万全を期したいと考えていますので各位の御協力をお願いいたします。（編集部）

ハイ・ユニ

黒く・濃く・きれいに書ける理想のシン

そのヒミツは

理想の粒度配合

時評

○……全日本学生選手権（7月11日〜15日・駒沢）を見ていてつくづく思ったのだが、最近のハンドボールの〃スピード化〃はすばらしいものがある。

もっとも、今春の世界選手権に出場した人たちに聞くと、ヨーロッパ各国の見せたスピードはおどろくべきものがあると目を丸くしているのだから、全日本学生でのスピードに驚いてばかりはいられないのかも知れぬが、ともかく、スピーディで、よりスリリングなゲームに成長していることだけは確かであろう。

○……ところで、こうスピード豊かになって来ると、現行の〃主審制〃だけで果して充分な判定ができ、ルールを公正に守っていくことが出来るか疑問になってくる。

例えばアイスホッケー、バスケットボールなどスピードを生命とする競技はおおかた〃複審制〃である。

国際協会でも前回の総会で提案があり、現在各国にもち帰り、それぞれの国で検討中とのことである（本誌22頁参照）。

最近の各国の動向を見ていると、かなり積極的に〃複審制〃をとりいれようとする方に動きはじめているように思われる。

いずれ来年IHFの総会で慎重に検討されることになろうが、我が国でも積極的な手をうつ必要があろう。

全日本学生を見ていても、もはやプレイヤーのスピードとクイックプレーに対して

検討せよ複審判の採用

〃正味時間〃も研究の必要

一人の審判の眼で裁き切るには限度に来ている印象が強い。この大会は、全国でも最優秀と折りがみつきのかたがたが担当していたので、トラブルはなかったが、〃複審制〃とすることにこしたことはないと思う。IHFに先だって関係者で研究されたらいかがだろう。

○……もう一つ感じたことがある。それは、ロスタイムの問題だ。現行は一つのボールで試合が終始するのを原則とし、ライン外に大きくそれた場合のみ、はじめて「チエンヂ・ボール」が許される。それも主審の私観で決められ。しかも新ボールは本部席からGK又は該当プレイヤーに渡される仕組みだ。ふだんはそれほど気にならぬが、試合時間が緊迫してくると、これは微妙な作用を及ぼす。

○……今年の2月、名古屋で行われた全日本実業団女子の大崎電気（埼玉）――大洋デパート（熊本）は同点のあと、残り時間1秒で大崎が劇的な逆転を演じたのだが、その前残り41秒の時に放った大洋のシュートが遠くゴールラインを割ったとしたら、この逆転劇は成らなかったかも知れない。

引き分けをねらって、意識的に遠くへシュートすることも可能なのだ。

お互い同じ条件といえばそれまでだが、ロスタイムを計り正味による試合運行が検討されてもよい時期に来ているのではなかろうか。（S）

おもいつくまま

○……一つの流行なのかも知れないが、最近、個人得点というものが話題にされている。

1月の世界選手権準決勝ラウンドで、木野実選手（立大）がヨーロッパの著名選手をおさえて〃得点王〃になったなどというニュースが、一そうそうした傾向に拍車をかけたようだ。それ自体悪いことではないのだが、得点の多少だけによって選手の能力を判断するようになると百害あって一利なしということになりはしないだろうか。例えば一試合で20本のシュートを乱発して10点をあげた選手と5本射って4点たたき出した選手と、表面では10と4で前者が優るが、チーム貢献度からすればこれはいちがいにどちらとは云えない。

得点補助者（アシスト）の明確化を

――個人得点高評価の傾向に想う――

それと同じようなことで、これは田村紡・宇津野コーチの意見なのだが、いわゆるアシスタント（得点補助者）の評価を高める段階にも来ていると思う。

アシストをはっきり記録として打ち出しているものにサッカーとアイスホッケーがあるが、ハンドボールも、個人の突進力にたよっていた時代をすぎて、フオーメーションプレーからシュートを生み出す多彩なテクニックが必要な時代になっている。

現在、日本のトップチームの陣容を眺めてみると、切り札的なゲッターのほかに必らずゲームメーカー、チャンスメーカーを備えている。

シューター自身のシュート力もさることながら、他の選手の〃協力〃が勝利の大きな要素になっていることは多言を要さない。

『アシストを明確にすることによって、ナショナルチームを編成する場合などにも、選手の選考資料が豊かになり、厚味のある布陣にできる。』と宇津野コーチはいう。

たしかにそうだと思う。話は横道にそれるが今春の世界選手権のベスト・セブンで3人のディフエンス専門プレイヤーが選ばれているというのも注目してよい。これは選考委員の卓見によるものだ。得点数がすべてを制しかねない内外の風潮に対して貴重な警鐘だともいえる。

日本の場合、シューター（得点者）をチエックするだけでもスムースにいかない記録担当者の乏しさを考えればその面で、おあずけになるとも考えられるが、ヨーロッパ各国でもアシストを明文化しているところはないだけに、是非日本がその先べんをつけて欲しいものである。関係者の努力を期待しておきたい（杉山茂）

ｋ学生
ール選手権
会

二球技場

11～15

全日
ハンドボ
大

於駒沢

1967.

フランスの技術研究（2）

ボール技術の基本はキャッチに

訳　藤本　強
（日本協会常務理事）

先号では、個人技術の基礎的なものをボールに触れない範囲で紹介していったが、今回はボールを扱う個人技術、特にキャッチについて触れていきたい。

☆　☆　☆

先号では、走る技術としては、スタートまで触れたが、ハンドボールでは、単に直線的に走ることはまずないといってよい。ストップ、方向転換、逆方向に走ること等の種々の走り方、止り方の組み合せによって、始めてプレーに即した走り方ができるようになる。

ストップする際には、体重の配分に充分気を配り、次の行動にすぐ移れるように、とまったあとでのバランスには充分に気をつけねばならない。ただ単に止ったというだけではものの役に立たず、実際のプレーに即したストップ技術とはとても云えない。常に次の行動にすみやかに移れるようなストップを心がけ、充分に練習をつんでおく必要がある。

また同時に、ストップする際にも、眼は充分に〝魚眼レンズ〟のごとく、広く左右、前後を見渡して、味方の位置、スピード、敵の位置、スピード、ボールの行方などに気を配っていなくては、ハンドボール用のストップとはいえない。

方向を変え、スピードをかえることも、味方の攻撃に合せ、パスをキャッチしたり、ブロックに入ったりする際には、ぜひ必要である。

方向をかえるといっても、右から左、またそのあと、単にジグザグに動く場合もあるし、ただ直線だけでなく円孤状にループする技術もとりまぜ使う必要がある。

このようなスタート、ストップ方向転換、逆方向に走るということは、球技特にハンドボールのような動きの激しい競技にあってはもっとも基本的な基礎技術としてくりかえし、くりかえし十二分に練習しておかなければならない。

二、ボールを伴った個人の基本練習

ボールに触れること、これはハンドボールの技術の鍵をなしているものである。これは相互に関連したいくつかのものに分けられるが、ここでは次の三つに分けて、考えていく。

捕ること……キャッチ
投げること…パスとシュート
進むこと……ドリブル

これらは説明の便宜上分けたのであり、それら相互は関連したものであることには変りはない。

これらをそれぞれに分け、研究していくのであるが、順序としてキャッチ、パス、シュート、ドリブルの順でとり扱う。

というのは、これらがプレーの順序に少しでも近いと考えられるからである。

良いパスは良いキャッチからしか生れない。巧くキャッチできなかったならば、決して上手なパスはすることができないし、少しでも良いパスをするためには、大変な努力がいる。

シュートはもちろん、タイミング、位置、そしてスピードと三拍子揃ったいいパスがこなければ、うてるものではない。

このように、これらの要素は組み合わさり、試合を構成していくことになるのであるが、選手個々人のコンビも重要な問題になってくるのであるから、全員一致したあるレベルに達した技術をもっていることはチームを作る際にもっとも肝要なことになってくるのはいうまでもない。

個人技術、それの集ったチームとしての技術、それの基礎の上にたった戦術は試合個々の場面で決定的な役割を果すことになる。

これらのもっとも基礎となっている個々人の技術のちょっとした欠点が、試合を大きく左右することになることはしばしば見られることである。走ることはもとよりボール扱いの基礎技術がいかに重要であるかは、多言を必要としない。

キャツチの技術

多くのコーチによって軽じられているこの技術は私たちがもっとも重要と見ているものである。

もちろん、ある選手達は、ごく自然に、ほとんど本能といってよいほどの巧妙なキャッチを見せることがある。

しかしながら、ごく普通の選手達はそうでないのであるから、十分に練習をつませ、理想的なキャッチをするようにさせなければならない。

良いキャッチのための基本的条件

もっとも基本的な姿勢としてはボールは両手で常にキャッチするように心掛けていなければならない。この時、指はできるだけ離して、手のひらもできるだけ拡げるようにし、全体を柔かく構え、腕はできるだけのばす。

ボールは手のひら、手首などでは決して扱ってはいけない、ただ指だけで扱うものである。

投げられたボールを自分でコントロールするためには、ボールのスピードをまず殺すことが必要であるが、それには、ボールに触れた瞬間にボールをコントロールすべく、柔かく腕、手首を使い、すぐに次の行動に移れるようにキャッチする。

胸より上にきたボールをキャッチするのには、指を上に向け、腕を前にのばして、ボールにまず触

れるのは、親指であり、それに他の指がついていく。

胸より下にボールが来た場合には、指を下に向け、前と同様に、充分に拡げ、腕も前に伸ばし、まず小指でボールに触れ、スピードを殺し、それに他の指がついていくようにする。

肩または胸の高さにボールが来て、すぐにそれを次の処理に移す場合（すぐパスするとか、シュートするような場合）には、片手でキャッチすることがしばしば行なわれる。

たとえば、右手でキャッチする場合には、指は前方の上方に向けて構え、ボールの下に触れ、のせるようにして、キャッチする。この際、左手は指を十分に開いて、いつでもボールを両手で扱えるような準備をしておく。

ボールが攻撃の際に届かないこともある。たとえば、サイドにいる選手に中央に位置した選手からパスする場合、通常のコースにボールがいけば問題はないが、そのコースがとれない場合が、実際の場面では、しばしばおこる。このような時には、体を十分に動かしボールのコースに到り、最後に腕をのばし、ボールにおいつく。腕をのばすのは最後にすることを十分に心掛けなければならない。

ハンドボール競技では、常に心掛けておかなければならないのは相手側のアタックから、ボールを護るようにしなければならない。

そのためには、ボールと相手の間に常に体を置くようにすることである。いいかえるならば、相手にボールを見せないようにすることである。

そのためには、相手の位置により、ボールをキャッチした位置によって、体をまげ、右か左かにひねり、相手の眼からボールをさえぎるようにする。

この体によって相手の眼からボールをさえぎる動作は、ハンドボールのプレーの際に非常に重要な動作となってくる。

高度な技術の選手は巧く、手首を十分に使ったキャッチをし、ボールを体を十分に使って、非常にすみやかに次の動作に移るようになっている。つまり、キャッチからパスまでの時間が非常に短くなっているのである。

ボールを手の中で扱い、キャッチがそのままパスになる。このボールを扱う技術によって、ボールはすばやく方向を変え、味方に渡ることになる。もっとも早く、ボールの方向をかえることができるのがこのキャッチとパスである。

地上に転がっているボールは種々の要因で転がるようになる。

悪いパスの場合、戸外の場合には、風などの要因で流される場合ボールがはねかえってくる場合ゴールポスト、カットなどで、地上に転がるようになる。

これらのボールをキャッチするのも、試合の場面では重要な要素となり、試合を左右することになることがある。

この転がっているボールをキャッチするには、体を柔かくし、すばやくかがめる。これらのことをできる限りの速さでやることが重要である。

まず、右手でキャッチする場合を例にとるならば、左足を軽く前に出し、ボールをキャッチすべく右足は軽く後にひき、やや曲げておく。それにひきつづいて、左足を曲げ、ボールをキャッチすべく左足を前に出す。このようにすることによって、ボールは完全にキャッチすることができる。

右手はボールをとりあげる。左手はすぐに右手を援け、ボールをおおうようにする。そして次の動作に移るように準備する。

ボールをキャッチする際、ぜひとも忘れてならないのは、相手のことを考えることである。

特に転がっているボールを処理する際にはこのことは非常に重要なことになってくる（転っているボールだけでなく、いわゆるルーズボールをキャッチする際にはいつでもいえるが）。

それはボールを相手から護ることである。もっとも近い相手の前に体を入れ、ボールを獲得することである。ボールと相手との間に体を入れてしまえば、相手がそのボールをとろうとすれば、必ず反則になり、ボールを獲保したことと同様になる。

最後に、レベルの高い選手は普通のキャッチの時でも、常に種々の彼のもっている技術――姿勢、手首の柔かさ、関節（手、腕、体など）を十分に使う――だけでなく、にかわ、やに、蠅取紙のようなねちっこさでキャッチをしたり、すぐに片手でパスを送ったりしている。

ゴールから9ないし10メートル離れた地点で（フリスローライン附近で）、攻撃をする際、またはゴールから6メートルの距離で（エリアライン付近で）攻撃する際には、高度のテクニックが要求される。前者では、キャッチをしてからすぐにボールを離す技術に高度のものを要求される。というのは、ここでのちょっとのもたつきは決定的にシュート・チャンス、パス・チャンスをなくしてしまうからである。

エリア付近の攻撃には、更にキャッチの高度の技術を要求されてくる。

ここでは、キャッチというよりむしろバレーでいうスパイクのような技術も要求される。もちろんこれは片手で行なわれるのであるが、エリア付近といった、ごく狭い範囲しか、フリーにならず、またごく短い時間しかフリーにならない場所では、スピードということが第一に要求される。両手でとって、それからシュート、パスをするのでは、決定的瞬間を失ってしまう。

このような場面では、片手キャッチというより、片手でキャッチする前に、すでに投げているような技術をマスターしておかなければならない。

コーナースローから、中央のジャンプしているプレーヤーに向ってエリア内に入れたパスをシュートする時などは、まさにこの場合にあたる。ゆっくりキャッチしていては着地してしまうし、また相手側の妨害にもあう。ぜひとも、キャッチする前にシュートする必要がでてくる。

このような場面は単にコーナースローからだけでなく、試合中には、しばしばおこる。

あらゆる場面に応じたキャッチが確実にできるようになっていることがボールを扱う技術のもっとも基礎になってくる。

こういった技術とともに、個々の選手の熱意、根性がボールに対する〃手品〃を可能にすることができる。キャッチは何にもまして基礎になることを銘記し、練習をすることである。

男女ともルーマニア

—世界ジュニア選手権より—

本誌42号20頁に既報のとおり、今年3月にオランダ各地で行なわれたジュニア世界選手権の記録と詳報が手に入った。

男子は十二ケ国、女子は八ケ国が参加しておこなわれた。男子はまず3チームずつ四つのグループに別れての予選リーグを行ない、上位2チームによる準々決勝、準決勝、決勝が行なわれ、更に敗れたチーム同志での順位決定戦が行なわれた。

女子は4チームずつの予選リーグ、上位2チームによる準決勝、決勝と試合がもたれた。

開会式の模様

男女ともルーマニアが強さを発揮し、優勝したのは既報のとおりであるが、ここでは、競技以外の多くの面で、ジュニア選手権らしい交歓風景がくり拡げられたことも特筆に価いしよう。

宿舎から試合を行なう各地にバスで輸送し、宿舎は全選手が同一地点にいるという画期的なプランでもって、この大会は準備されていた。このような一つの宿舎であるので、種々の競技以外の催しものが行なわれて、親善にはすこぶる有益であった。

国際ハンドボール連盟の財務理事マックス・リンゲンバーガー氏も列席し、そのほか多くのハンドボールマンを集め、にぎやかな大会であった。

今回はヨーロッパのみの参加であったが、各国はこれを世界選手権、オリンピックの前哨戦と考えて、非常な力を入れている。我が国も負けずに、ジュニア強化にも力を注ぐ必要があろう。

▽男子予選リーグ

Aグループ

ユーゴースラビア 19—16 スウェーデン
スウェーデン 21—16 ハンガリー
ユーゴースラビア 15—11 ハンガリー

①ユーゴースラビア2勝、②スウェーデン1勝1敗、③ハンガリー2敗

Bグループ

ルーマニア 13—12 チェコスロバキア
チェコスロバキア 14—7 スイス
ルーマニア 22—10 スイス

①ルーマニア2勝、②チェコスロバキア1勝1敗、③スイス2敗

世界選手権の宿敵同志、ルーマニア、チェコスロバキアがはからずも予選リーグで顔を合せることになった。前半は6—6の同点で全くゆずらず、互角の形勢であったが、後半を迎え、まずルーマニアのバドーのゲットで7—6とした、すぐにペカルが返し、7—7つづいて、リアのゲットで8—7となり、次いで8—8と三度び同点となった。チェコはクリムシクのロング、つづいてポストと8—10と離した。ルーマニアもバドー、モルドヴァンと連続ゲットで四度び同点となった。

リスが7メートルを決め、それにすぐおいつき、五度び同点、チェコがボールを持ち、優勢に試合を進めていたが、一向に得点にむすびつかず、18分には、本大会の男子選手の中で、もっとも呼び声の高かったガツ選手が決め、12—11とルーマニアがリードした。チェコはクリムスクによっておいつき、六度び同点というすさまじい試合となった。最後にモルドヴァンが決め、さしもの熱戦の幕をとじた。まさに予選リーグの白眉という試合である。チェコとルーマニア、まさに宿敵同志という言葉がピタリと当たろう。

男子決勝戦

Cグループ

西ドイツ 19—15 ポーランド
スペイン 14—13 西ドイツ
ポーランド 23—16 スペイン

①ポーランド1勝1敗（得点38・失点35）、②西ドイツ1勝1敗（得点32・失点29）、③スペイン1勝1敗（得点30・失点36）

Dグループ

オーストリー 13—12 オランダ
オランダ 29—8 ベルギー
オーストリー 28—8 ベルギー

①オーストリー2勝、②オランダ1勝1敗、③ベルギー2敗

▽男子準々決勝

各予選リーグの1位、2位によって争われた。

チェコスロバキア 12（7─6 5─5）11 ユーゴースラビア
ルーマニア 22（10─7 12─8）15 スウェーデン
西ドイツ 22（12─4 10─8）12 オーストリー
ポーランド 23（12─8 11─9）17 オランダ

▽男子9〜12位決定1回戦

スペイン 31─4 ベルギー
ハンガリー 19─13 スイス

▽男子準決勝

ルーマニア 22（13─7 9─10）17 西ドイツ
ポーランド 20（8─7 12─4）11 チェコスロバキア

▽男子5〜8位決定第1回戦

スウェーデン 15─13 オーストリー
ユーゴースラビア 19─8 オランダ

▽男子決勝戦

ルーマニア 22（7─5 15─3）8 ポーランド

前半は大量に得た7メートルスローを良く生かしたポーランドではあったが、後半くずれ、ガツのロング、パプ、モルドバン、リス、コスマなどの連打、巧打で着々得点を重ね、大差となってしまった。

バランスのとれたルーマニアの勝ちは順当であろう。準決勝で敗れはしたが、チェコを買う声が強かった。事実、優勝したルーマニアが一番手を焼いたのが、このチェコであったのだから、このスタンド評もうなづける。

女子決勝戦

得	【ポーランド】		【ルーマニア】	得
0	コワルスジク	GK	ペヌ	0
0	ロマノウスキィ	GK	ダン	0
1	ストロジク	FP	リス	4
0	ノワロウスキィ	FP	コスマ	3
0	リジウィクス	FP	パプ	5
0	クリジイル	FP	バドー	0
1	プレカレク	FP	モルドバン	5
0	ウラズロ	FP	コアサ	0
0	スジムスザク	FP	ディンカ	0
2	レク	FP	デネア	0
4	スゾスカ	FP	ガツ	5
8	（5）	7MT	（3）	22

▽女子予選リーグ（3〜12位決定戦は42号既報）

Aグループ

ハンガリー 14─8 西ドイツ
ルーマニア 11─6 デンマーク
ハンガリー 13─5 デンマーク
デンマーク 13─12 西ドイツ
ルーマニア 10─9 ハンガリー
ルーマニア 12─8 西ドイツ

①ルーマニア3勝、②ハンガリー2勝1敗、③デンマーク1勝2敗、④西ドイツ3敗

Bグループ

オランダ 10─10 ポーランド（引分）
チェコスロバキア 12─6 スウェーデン
スウェーデン 11─9 オランダ
チェコスロバキア 6─5 ポーランド
オランダ 11─11 チェコスロバキア（引分）
スウェーデン 6─5 ポーランド

①チェコスロバキア2勝1分、②スウェーデン2勝1敗、③オランダ1敗2分、④ポーランド2敗1分

▽女子準決勝

各グループの1、2位で争われた。

ルーマニア 14（4─1 10─3）4 スウェーデン
ハンガリー 4（1─1 3─2）3 チェコスロバキア

▽女子5〜8位決定1回戦

オランダ 9─5 西ドイツ
デンマーク 14─14 ポーランド（デンマーク抽籤勝ち）

▽女子決勝戦

ルーマニア 10（4─2 6─5）7 ハンガリー

得	【ハンガリー】		【ルーマニア】	得
0	バウムガルトナー	GK	ブザス	0
0	カルドス	FP	スース	4
0	ティル	FP	モス	0
4	ホルバス	FP	イリー	0
2	ユバクス	FP	スツェケリ	3
0	キス	FP	シュランコ	1
1	クルクサイ	FP	ネアゴー	0
0	メリク	FP	ニュラエ	1
0	ホルノク	FP	デヒルリー	1
0	スザボー	FP	バイコアヌ	0
7	（4）	7MT	（1）	10

ルーマニアのスピードが勝った試合である。予選リーグできわめて苦しい試合を戦ったルーマニアはハンガリーをかなり研究していた。予選では、ハンガリーは6：0防禦をルーマニアは4：2防禦をしき、互に競い、数度に亘る同点を重ね、最後にルーマニアがふりきったのであるが、この時ハンガリーの得点の3分の1をたたきだしたクルクサイを押えるのにルーマニアは成功した。

この試合ルーマニアは4：2防禦を行なった。前半はきわめて、得点のすくない試合であった。後半に入ると4─2とリードされたハンガリーは追いあげにかかり、ホルバスの活躍により、すぐにタイにされ、その後連続4点をルーマニアに許し、10─6とされてしまい、1点を帰したが、及ばなかった。ルーマニアのスピードがものを言った試合になった。

▽女子5位決定戦

デンマーク 16─9 オランダ

▽女子7位決定戦

ポーランド 17─14 西ドイツ

（3位決定戦は42号に既報）

この大会を通じて、特筆されるのはルーマニアの男女征覇であるが、多くの若い有能な選手をかかえていることが、本大会でも、十分に示された。現在は男子はチェコに、女子はハンガリーにそれぞれ世界の王座を奪われてはいるが遠くない将来、再び王座につくことは明らかであろう。このルーマニアに続く、実力保有国はやはり男子はチェコ、女子はハンガリーといった現在の世界選手権チームというのがスタンド評であった。

当分東欧の天下は崩れそうもないという印象が強い。

我が国でも大いにジュニアを強化し、この大会にもできるだけ選手を派遣し、大いに本場の技術を身につけさせることが世界の一流国の仲間入りする近道となろう。

ハンドボールも仲間いり

——全国スポーツ少年大会

日本スポーツ少年団本部主催による全国スポーツ少年大会は今年第5回を迎え7月26日から31日までの6日間、山梨県本栖湖の日本スポーツ少年団本栖湖センターで行われるが、これまでの陸上、サッカーなど8種目のほか、新たにハンドボールなど6種目も加えられることになり、日本協会、高橋健夫普及部員を主任に、普及部から津島達郎、宇津野年一の三氏と東京教大、日体大の現役選手各三人が指導員として派遣されることになった。

この大会に参加するスポーツ少年(14才～18才)は全国47都道府県からそれぞれ23名(男16女7)の合わせて約千百名と各都府県指導者百名で、全参加者を10分団に分け、さらにそれをA、B二つのコースに割って各種目を実施するわけだが、ハンドボールは陸上、バレーボールなどとともにAコースで扱われる。

日本協会では、スポーツに親しむ少年少女たちに、ハンドボールが理解されるまたとない機会だとして、この大会の成果に期待をかけている。

カウナス(ソ連)が初優勝

——女子ヨーロッパ・カップ

第七回女子ヨーロッパカップ選手権大会は今春からおよそ4カ月にわたり、ヨーロッパ各地で各国の選手権チームによって、熱戦がつづけられていた(42号20頁既報なおこの頁スパルタカス・ブタペスト(ハンガリー)が準決勝に残っていることになっているが、これは外電の誤りで、準々決勝でスパルタカス・ブタペストは優勝したカウナスに敗れているので、準決勝に残ったチームはブタペストに変ってカウナスが残っていたので訂正します)。

このほど全日程を終り、ソビエトのシャルジリス・カウナスが昨年の優勝チーム、東ドイツのS、Cライプチッヒを決勝戦で破り、第3回のツルド・モスコーについで覇権をソ連にもたらした。

▽準々決勝(2回戦制・①は第1戦、②は第2戦)

ティミソアラ(ルーマニア)＝HGコペンハーゲン(デンマーク)
①8—2 ②10—10

シャルジリス・カウナス(ソビエト)＝スパルタク・ブタペスト(ハンガリー)
①7—8 ②11—8

ボヘミアンズ(チエコ)＝バイエル・リバークーゼン(西ドイツ)
①7—6 ②5—6

SC・ライプチッヒ(東ドイツ)＝ポドラブカ・コプリブリカ(ユーゴ)
①15—8 ②10—7

▽準決勝

SCライプチッヒ＝ボヘミアンズ
①13—3 ②10—6

シャルジリス・カウナス＝ティミソアラ
①10—7 ②5—4

▽決勝

シャルジリカ・カウナス 8(3—3, 5—4)7 SC・ライプチッヒ

(注) 準々決勝で惜敗したユーゴのポドラブカ・クラブは来年日本遠征を行いたい意向があると外電が伝えて来ている。

IHF〃複審制〃を検討

ドルトムントで行なわれたヨーロッパ杯の決勝戦を見て、このレベル試合には、複審制をとる必要があると考えられた。この現在のスピートあふれるハンドボールのためには、一人の審判では、とても眼がとどかない状態になっている。

先回の総会に提案されたところに従って、IHFは各国協会に複審制の試行をしてみてはとすすめていた。

この試行結果を知ることは大変興味深い。ヨーロッパ杯の決勝戦を見れば全く疑う余地なく複審制を採用することが少なくともスピード溢れる高レベルの試合には必要だと考えられる。

世界選手権大会、ヨーロッパ杯大会、重要な国際試合、国内選手権大会の決勝等には、すみやかに複審制が採用されることが望まれる。

ヨーロッパ杯の決勝戦を見てこの試合は技術、戦術的には、非常に高いレベルに達っしてはいたが、それに伴う高度のレベルに達ったフェアーなプレーは全く見られなかった。技術・戦術的にレベルが高くなればなるほど、フェアーなプレーを見たいものであるのだが、現実にはそうはなっていないのは極めて残念なことである(〃国際協会公報67〃1967年5月号から。訳・境井常務理事)

会長・西氏、理事長・安藤氏

全日本学生連盟役員会

全日本学生連盟は7月10日東京・岸記念体育会館で前期全国役員会を開き、棚橋前会長辞任で空席となっていた会長に、先に関東学連から推せんされていた西敏郎氏(慶大OB・関東学連会長)の就任を正式承認した。

また席上、荒川理事長から「日本協会理事長となったためこのポストを返上したい」と発言があり協議の結果、辞任を承認。ただちに新理事長の選出を話しあった結果、関東学連理事長安藤純光氏(法大OB)を推すことに決め、承認した。

なお、後期役員会は11月23日東京で開かれる予定。

松山市で開催内定

来年の全日本学生選手権

全日本学生連盟では、来年の第11回(女子第4回)全日本学生選手権を愛媛県松山市で開くことを決めた。

主管は中四国学生連盟となるが主管事務は四国側二校(松山商大、愛媛大)が、同連盟から一任される形が採られることになりそうだ。

連載・リレー寄稿

日本ハンドボール界の課題（3）

～三十周年を迎えた球界に望む～

藤田信明
（大阪協会副会長）

三十年の歴史を若いとみるか、或は相当の年令を経たとみるか、それは人それぞれのみかたがあろう。私はハンドボール界の姿を決して若いとは思っていない。何故ならば戦前十一人制で発足し只ひたすらこの道に励んだ或は指導の困難を克服して今日の隆盛に導いた多くの先輩の血の結晶がこの栄光を与えたものと感じているからである。

過去の一年を現在の二年に否三年にも感じている。此の間における協会の発展に対する基礎づくりになみなみならぬ辛苦の道を観るからである。また、今日地方の協会はハンドボール発展のために営々として、その人口の増加低辺の拡大、技術の向上に日夜努力精進しているのである。協会はこの姿をただ望見していてはいけない。

協会はハンドボール界における先輩として、地方が一人前に丈夫に、育ちゆくよう細心の注意と援助をする義務があるのである。今日のハンドボール界の秩序のなかで、教育者としての任務というものがあるのである。

過去を憶い現在の地方の姿を深くみつめ、尚且つ未来の映像をしかと心の奥そこにたたみこんでおかなければいけない。

「人間を常に目的として考えよ、いかなるときにも、これを手段として見るな」というカントの有名な教えがあるが、私はこの言葉をかえて、「地方を常に目的としてみ、いかなる場合もこれを手段としてみるな」と置き換えたい。

これが将来に一層の光の輝きを招来するものであると信ずる。

両び財源確保について

次に本部協会に望むことは、上手に資金をつくれといいたい。地方協会に依存率の高い現在の在り方に一考を望む。

国際試合には皮の縫ボールを使用するという。今日のわれわれの感覚では一寸考えのつかぬことである。ハンドボールの家元の先進国が今だに縫ボールしか使わぬということはどうも合意のゆかぬ話である。

そこで、むしろ日本で現在使用しているボールを世界選手権、その他の欧洲選手権大会に使用するよう日本協会は努力してはと提言する。わが国のボール業界は既に世界の水準に達しているのではないか、ボール製造の技術も向上発展している。これを、それぞれの国に、輸出すれば日本のハンドボール界の利益は、そのまま世界のハンドボール界の利益ともなるのである。これによって業界の技術開発も一層飛躍するであろう。技術開発、それは企業の生命でもある筈である。日本人の勤勉さと大小様々な創意工夫は、やがて大きな財産として協会にはねかえって来るであろう。その利潤の一部を、本部協会は確保すれば、今後益々増えるであろう国際試合も、今までより比較的無理なく行えるのではあるまいか。

世界の空に、日本制のボールがとぶと考えただけでも、嬉しくなる。協会はあらゆる手を尽してこの方面にも、知能、才覚を働かして欲しいものである。業界の有力代表をヨーロッパに派遣して、その実情を、専門的に研究して貰っては如何なものか。

以上私は二つの提案を協会に申上げたいのである。

その一つ、ものの見かたということになると、どうしても歴史的な展望が必要であり、現在起っている、いろいろなことも、過去のいっさいを理解しないと、現実の把握ができない。ハンドボールの歴史という広い視野からの観察が必要なのである。過去は現在に、つながり、現在は未来に広がるのである。

その二つは上手に資金を集める工夫を、じっくり、智恵をしぼって行って欲しいという事で、あたたかみのある、大黒柱の協会に支えられた、経済的な安定は若い人々に信頼と、大きな希望を与えることとなる。

同時にそれはハンドボールが、広く深く、益々隆盛の基となると思うのである。本部、地方一丸となって、ハンドボール界発展のために尽したいと考えているものである。

☆　☆　☆

本年度の国際審判員講習会
ルーマニアで開催

一年置きにＩＨＦによって、開かれている国際審判員講習会は1963年のフランスのパリ、1965年のユーゴースラビアのピランにひきつづき、今年はルーマニアで開催されることになっている。

この講習会はＩＨＦの技術委員会によって、主催されており、ルール解釈の伝達など、非常に重要な会議となっている。

本年度の大きな焦点は〝複審制〟の問題になろう。この講習会では確な結論は出ないが、ある方向はきわめて、はっきりと打ち出されることになろう。

もちろん〝複審制〟といったルールを大きく変えることとは、総会を置いては他に考えられないが、その総会に原案を提示するのは、他ならぬこの審判講習会を主催するＩ・Ｈ・Ｆの技術委員会だからである。この講習会でどのような方向が打ち出されるか、注目する必要がある。

おわびと訂正

43号7頁2段、研場益雄→的場益雄、44号4頁名簿、薬田八郎→藤田八郎氏のそれぞれ誤りでした。おわびをし、訂正いたします。

球界パトロール

どうした関西勢の不振（全日本学生）

〜期待したいOB現役一体の奮起〜

○…『関西勢のこの不元気はいったいどうしたことだ……。』全日本学生選手権（7月11日〜15日）の開かれた東京・駒沢第二球技場のあちこちで聞こえた声である。この大会に関西学生界からは関大、大阪経済大、甲南大、関学、京大の一部校をはじめ7大学が参加したのだが、第1日（1・2回戦）でそのうち5校が姿を消し、第2日（3回戦）に勝ち残った関大と大経大も芝工大、立大の前に屈して、ついにベスト・エイトには一校も進むことが出来なかった。

○…定期試験とぶつかった関西ナンバー・ワン同志社大が出場していれば上位陣の一角に当然喰いこんでいただろうと見る人もあるが、かっては日本学生界のリーダー・シップさえとったことのある関西学生界が上位8校にも入ることができぬほど低迷してしまったのは、淋しいことだし、情ないことだと思う。

○…大会を見に来ていた梅野関西学連委員長（同大4年）は『あきまへん』とただ一言。関東勢の強さというよりも関西諸校の元気のなさを嘆いている感じだった。

今回の不振は、ある程度は予想されていたのだが、1回戦で関学と顔を合わせた東京教大も「低調といっても名門だし……」と慎重な構えをみせていたし、甲南大を破った明星大（関東学生春季3部優勝）も「勝ちたいとは思っていたが、とにかく一部校なのだから」とやはり、関西勢の〝伝統〟の力を認めていたものだ。

○…学連関係者の〝声〟を集めてみると「関東ほど各校の実力が均こうしていないため、もまれかたが少い」「優秀高校選手が関東に集る傾向が強い」「リーグ戦の運営一つにしても関東ほどまとまりがない」「各校OBの熱意がもう一つ欠けている」などといわば〝精神的〟な面への批判が多い。しかし「技術的に完全に関東に立ち遅れている」のがすべてではないのか。どのプレーをとっても今大会を見るかぎり、関西勢は関東勢に〝負け〟ていた。スピード、ボールへの執着力、試合構成力……。

○…関東勢だけでつねに優勝を争っているようでは学生界の発展はあり得ない。また、中京大（東海）、西南学院大（九州）などのみせたプレーは地方学生界の大きな成長をはっきり示したといえる。伝統に輝やく関西学生界にかわって、これら新進群の抬頭がないと誰が云い切れよう。関西勢の奮起は、現役選手だけの課題ではなく、OBをもふくめた問題のように思う。全日本学生の覇権を競う関西勢の雄姿が一日も早く復活されるよう心から期待したい。

早大、関学に3連勝

春の東西大学定期戦

恒例春の大学定期戦は6月4日の第14回名大—阪大戦を皮切りに各地で行われたが、今シーズンも関東勢の充実がめだった

第22回早大—関学定期戦は6月10日神戸市・王子体育館で行われ勝負をかけた後半、早大攻撃陣が押しかった。早大はこの定期戦ではじめて3連勝。対戦成績は関学の14勝8敗。

早大 17（5—5、12—6）11 関学

慶大、二つの定期戦に勝つ

第20回慶大—京大定期戦は6月10日東京・大田区体育館で行われ慶大が前半のリードを守り切り3連勝。対戦成績を14勝5敗1分とした。

慶大 23（13—10、10—10）20 京大

第14回慶大—甲南大定期戦は7月8日雨の日吉慶大コートで行われ慶大が3連勝した。対戦成績は慶大の12勝2敗

慶大 14（8—3、6—7）10 甲南大

明大、立命館に大勝

第20回明大—立命館大定期戦は6月9日明大八幡山コートで行われ明大が快勝した。

明大 24（12—4、12—4）8 立命館大

法大も関大を破る

第19回法大—関大定期戦は6月10日法大木月コートで行われ、法大が西日本学生優勝の関大に制勝した。法大は2連勝。

法大 19（9—5、10—9）14 関大

京大また勝つ

第17回東大—京大定期戦は6月11日東大御殿下グランドで開かれ京大が勝った。

なお、この試合前に、本誌既報のとおり、11人制による両校OB戦が行われた。

京大 14（7—7、7—2）9 東大

名大、東海1位の貴録

第14回名大—阪大定期戦は6月4日名大球技場で行われ、東海1位の名大が秀れた攻撃で完勝した

名大 27（13—7、14—4）11 大阪大

東北学院大好調つづく

第18回東北地区大学総合体育大会ハンドボール競技は7月1、2日郡山市・日大工学部体育館に新加盟の宮城教大、仙台大をふくむ9大学が参加して開かれた。

▽1回戦（1試合）
山形大 28—13 日大工学部

▽2回戦
福島大 27—11 宮城教大
弘前大 27—26 仙台大
東北学院大 23—14 岩手大

▽準決勝
東北大 36—10 山形大
東北大 25（8—4、17—9）13 福島大
東北学院大 33（16—9、17—7）16 弘前大

▽決勝
東北学院大 15（6—6、9—5）11 東北大

九産大、西南に大勝

福岡県6大学新人トーナメント

▽1回戦（2試合）
九州産大 33—10 東海大
西南学院大 11—10 福岡工大

▽準決勝
九州産大 30—14 九州大
西南学院大 22—13 福岡教育大

▽決勝
九州産大 22（6—2、16—6）8 西南学院大

——二つの学生選手権後記——

西部学生

ここしばらく雨らしい雨もなく快晴の毎日だったが、前日午後よりにわか雨になったが当日はからりと晴れ大会にふさわしい好天に恵まれた。昨年の優勝チーム西南学院大学を先頭に十五チームの入場行進に続き開会式・続いて9時30分よりA・Bコートにおいて第1日目の11試合が行なわれた。第2日目は準決勝2試合に続き3位決定と決勝戦が行なわれた。決勝戦は一点を争そう好ゲームと成ったが最後に西南にがいかがあがった。山大も共に全力をつくしてよく戦った。

試合を顧り見て2日間の好天と出場チームの各チームが皆フェアープレーに徹したことが非常に印象に残る。技術面では劣る所も多くあると思われるが、試合におけるマナー。この点については今迄数多くの大会に自分自身参加したがこれほどキレイに出来た大会は初めてであった。今後共に精進されるよう望み又他の大会もこのようにあるべきと思う。大会の大成功を喜ぶ。

（柳井文治・大会審判長）

中・四国

今シーズンから新たに広島工大を加え、一部5、二部5の計10校のあいだで行なわれた結果、一部は岡山大（昨春以来3シーズン連続）、二部広島大福山分校がそれぞれ優勝した。（記録は前号既報）

一部においては、西日本学生（4月・大阪）で健斗し、西部日本学生準優勝の山口大と同三位で昨年の覇者岡山大と巻きかえしを狙う伝統の広島商大の三校の間で優勝が争われる予想であったが、広島商大が以外に不調で緒戦に岡山大に大差で敗れ優勝戦線から脱落した。

一方山口大と岡山大は、広島商大山口大工学部にそれぞれ苦戦するという場面もあったが、まず順調に勝ち、全勝同士で第二日目の第四試合に優勝を賭けて戦った。山口大は初優勝へ、又、岡山大は西部日本学生の雪辱へと意気上り熱気のこもった試合展開となった。結果は、山口大のエース中田を徹底的にマークした岡山大が始終リードを保って勝ったが、優勝戦にふさわしい緊張した試合であった。

今大会において、岡山大の長身を利してのロングシュート、山口大中田のリードオフ及び初参加の広島工大の健斗が注目された。

（船越雅彦・中四国学連委員長）

※両大会の記録は前号既報

ハンドボールの歴史

都城西高（宮崎）

我が校のハンドボール部は昭和39年同好会で発足し、40年に正式に部と認可され県民体育大会兼九州大会で惜敗、インターハイ予選で初優勝。以来敗けを知らないチームになりました。しかしこれは「井の中のかわず」でありました。全国大会に二年連続出場という偉業はなしとげましたが、この出場には色々な苦難なこともありました。九州地区国体予選（熊本）のときなど大洋デパートなどと合同練習など依頼したり、九州大会（佐世保）のときは本試合には敗けその後練習試合をお願いしたり、とにかく県外試合に出かけては非常の多くのものを吸収してかえりました。大洋の井かんとくさん北川、藤田両先生には誌上で感謝いたします。私たちの学校は一日七時間授業で一日二時間たらずの練習に必死になり取りくむこととチームワークをとることがキャプテンの私の責任です。今年度も宮崎県民体育大会兼九州大会予選で昨年に続いて優勝さしていただきましたが後に残された全国大会予選で三年連続優勝を目標に毎日練習に精だしています。主将　堀之内美夕

―試合で普段の力を―

桐蔭高校（和歌山）

「試合においては普段の力を発揮すればよい。実力以上のものを出そうと思うな。」とよく言われるが、僕はこの意見には全く反対である。練習では見られないようなすばらしい動きができ、又、シュートが試合では決まる。それが理想で、その理想に一歩でも近づくように努力すべきだと思います。練習とは技術の体得、及び試合で実力以上のものを発揮するための精神力を育成することだと考えています。さて、今年のインターハイは和歌山で、しかも我が桐蔭高校で開催されます。幸い僕達も出場権を獲得できました。一昨年の九月、現在の三年生がまだ一年の時、約十名が山田先生の指導のもとに始めてボールを握って以来の目標が達成されたわけです。大会までに残された時間も少なくなってきましたが、今まで以上の努力を重ね、大会では先に書いたような気持を持って、開催県代表として恥かしくない試合をしたいと決意しています。（主将　谷所清雅）

桐蔭高校

ハンドボール部の歴史

登別高校（北海道）

登別高等学校ハンドボール部が設立してから今年で三年目です。この短い歴史の中で私達の先輩は全道三位という、立派な成績を残してくれました。私達は、先輩達の毎日の努力を決して忘れません。これから学び得たのはチームワークのむずかしさ、それと個々の研究心です。

今年のクラブ員は一般に背があまり高くありません。だから、これを補うために敏速な動きを身につけるために努力しなければなりません。先生も一生けん命指導して下さいますし、時々先輩もきて注意を与えてくれます。

私達もそれに答えたいと思い毎日練習しています。しかし、ただするのではなく先輩から教えられた研究心を生かし、どうすれば自分たちの体格や特性をフルに活用できるかを知ることが大切です。さらに、全員がガッチリスクラム組んで少し位の困難には負けないようなチームワークをつくることです。そして、着々と足場を固め先輩を上回る功績を残したいと思います。（登別高校女子ハンドボール部　棟方志津子）

宿敵を敗って

真備高校（岡山）

私達の学校はハンドボールを結成して三年目です。現監督の先生がこの学校にきて作られたそうです。私達の先輩が始めて、この球技を手がけたのです。グランドの整備も不完全で当時

真備高校

は基礎練習ばかりだったそうです。

それ以来私達のメンバーになってから毎日毎日練習に打ちこみました。他校のように古い伝統はありません。しかし私達は、一生懸命に今日まで中国大会全国大会出場を目標として、みんなの心を合わせて練習に打ちこんだ。

色々と試合経験を積み重ねついに県代表を決定する大会の日がやってきた。6月11日、この日は私達にとって記念すべき輝かしい日であった。決勝戦で古い伝統のある強敵の井原高校との対戦いままでどうしても破ることのできなかった学校でした。私達はもう無我夢中で走り廻り、ボールをパスし、シュートした。タイムアップの笛が鳴った。4対3ついに栄冠は私達の頭上に輝いた。この日を夢み自ら苦しい練習に耐えてきた。私達はその感動で声も出ず、ただ胸いっぱいにこみあげてくる喜びに、お互いに手を取り合い嬉し泣きに泣いた。これからも、いっそう努力を重ねて行きたいと思う。

湯沢高校

今年の抱負

湯沢高校（秋田）

いよいよ私達の時代が来た。昨年まではまだ三年生がいるから私達の出番がなかった。然し今年は私達がメンバーの最上級生で、しっかりしなくては……という気持でいっぱいである。

秋田県のハンドボールの歴史は浅い。然し女子に於いては昨年全国優勝している。男子も負けてはいられない。私達がやらなければ一体誰がやるのだと思う気持が部員全部の中にある。昨年末より今のメンバーに切り変えて目標を三つたてた。その目標とは県大会完全優勝、第二に全国大会上位入賞、第三に国体出場ということである。以上の目標を果たすべく毎日毎日汗と泥にまみれ辛さ、苦しさに耐えてがんばっている。全員走れば勝つ、パスモーションが早いと勝つ、ディフェンスが強いとキーパーとの連絡が良くなり、良い

プレーができると自信をつけている。今年はさらにその自信をもとに次の目標に突入するのみである。ボールを持ったときの生きがい、すばらしい事の前には、苦しみもきびしさも克服されるのではないか、「いよいよ私達の時代である」がんばるぞ。

（主将　加藤　勇）

先輩に続こう

羽咋高校（石川）

我が羽咋高校ハンドボール部は数多くの先輩たちによって築き上げられた伝統と誇りで、今もなお建在している。現在の部員数15名、うち二年生7人、一年生8人、三年生は勉強のため引退した。が、時々顔を出して僕たちをしごく。

僕は今現在二年生で、キャプテンをやっている。ポジションはキーパー、ジャンプ力と機敏さを必要とするので鈍い僕には苦しいことである。一年の頃ボールが顔にあたり、ずいぶん先輩をうらんだものだ。なぜ僕だけがこんな目に合わねばならぬのか、涙をこらえながら思いつめたこともあった。こんな生活から協調性を学び、また今統率を学びつつあるがなかなかやっかいなことだ。勉強のため仲間が一人、二人と離れて行くのはとても耐えられない。が一生を左右することだから僕には

なんとも言えない。こんな時皆を強く率いた堂高、赤池キャプテンなどは実にりっぱだと思う。クラブ内の問題が複雑になればなるほどそれらの人は尊敬の対象としてくっきりと僕の頭に浮かび上がる。さあ諸君、先輩に続こうじゃないか。（主将　島本　篤）

目標に向って

松山工高（愛媛）

愛媛県立松山工業高等学校ハンドボール部は、今年で18年目を迎えた。今日も我々は、先輩に続けを合言葉に強い日射のもとで練習に励んでいる。松工ハンドボール部の使命は、先輩の築いた伝統を守りより飛躍する事である。先輩や先生方の期待にそうために毎日毎日汗と土にまみれ、夏の暑い日や寒風吹きすさぶ真冬のグランドで厳しい練習に耐え、ハンドボールに若い力と肉体をぶっつけ合っている。ただひたすらに全国大会出場を夢みて夜遅くまでの練習にあけくれている。日々の練習は長くつらいけど部員すべて休む事なく『新居浜工業』に追いつけ追い越せを目標に頑張っている。七転八起の精神に、短い勝負に若いエネルギーを燃し、今後の反省と努力と、あすの勝利を信じて……。今後もハンドボールを愛し続けて行きたいものだ。（主将　郷田博文）

連載第34回

ハンドボール球史

全日本総合室内 第5回〜第13回

全日本総合室内の第5回大会は大阪府立体育館で開かれた。

この会場を使うのは3回目、ちょうど2年おきである。会期は前回同よう新春1月5日から3日間で男子19、女子11チームが参加したが、やはり新年早々の〝全国大会〟というのは出場する側にとってはよい条件が揃っているとはいえず、第6回大会からは1月下旬に変わり、さらに第8回大会からは12月に移され、以後現在まで年末のビッグエベントとして東京に〝定着〟することになる。

さて、第5回大会は男子は全日体大（東京）が初優勝した。

ベスト・4に勝ち残ったのはこのほか全芝浦工大（東京）、大阪ク（大阪）、全兵庫（兵庫）で常連ともいえる顔ぶれであった。

一方、女子は全日本総合優勝の愛知紡（愛知）、国体一般女子優勝の寝屋川ク（大阪）がともにダブル・クラウンを狙って出場。両者は準決勝で顔をあわせ寝屋川クが国体につづいて愛知紡を降し初優勝を飾った。

寝屋川クは高校界の名門寝屋川のOG。現役がこのシーズン、全日本高校（函館）で熊本市高と優勝を分けあい、その傘下に三つの全国タイトルを持ちかえったことになる。

現在の一般女子界は有力実業団にすべてを占められてしまった印象が強いが、この当時のクラブ（OG）の地力は球史を語るうえに見のがすことはできない。

なかでもこの寝屋川クをはじめそれ以前に出色の活動を示した倉敷青陵ク（岡山）、明善ク（福岡）、稲沢ク（愛知）や大阪ク、愛知ク、全山梨らの存在を忘れてはならないと思う。この当時のOGたちの情熱が、何度か消えかけた一般女子界の灯をささえ守り切って、今日の姿を産みだしているのである。

話は横道にそれたが、この大会で栃木女高（栃木）が準優勝した健斗も特筆される。同校は第6回大会でも3位、第7回にも準優勝とその善戦の歴史をつづけることになる。

【第5回全国日本総合室内＝昭和34年1月5日〜7日・大阪府立体育会館】

▼男子1回戦（3試合）

熊本教員ク（熊本） 29—14 奈良ク（奈良）
豊陵ク（大阪） 26—10 神奈川陸上自衛隊
京都ク（京都） 19—6 名古屋大（愛知）

▽同2回戦

全芝工大（東京） 20—12 熊本教員ク
旭桜ク（東京） 19—8 大阪学芸大ク（大阪）
全明大（東京） 不戦勝 大垣ク（岐阜）
全兵庫（兵庫） 11—10 豊陵ク
全日体大（東京） 17—4 京都ク
全教大（東京） 14—8 高津ク（大阪）
大阪ク（大阪） 13—11 全早大（東京）
全宮城（宮城） 22—3 愛媛教員ク（愛媛）

▽同準々決勝

全芝工大 19—6 旭桜ク
全兵庫 14—13 全明大
全日体大 16—9 全教大
大阪ク 25—14 全宮城

▽同準決勝

全芝工大 28（16—6、12—4）10 全兵庫
全日体大 13（6—5、7—5）10 大阪ク

▽同3位決定戦

大阪ク 12—11 全兵庫

▽同決勝

全日体大 16（9—7、7—4）11 全芝工大

優勝メンバー

北川勇喜
山下勝司
梅田幹夫
松田徳之助
東嘉伸
井上裕人
竹野奉昭
大西富男
滝口澄夫

▼女子1回戦（3試合）

清水女高（静岡） 7—4 全大垣南高（岐阜）
日体大（東京） 8—3 有磯高（富山）
大谷ク（大阪） 4—1 日女体短大（東京）

▽同準々決勝

愛知紡（愛知） 10—2 清水女高
寝屋川ク（大阪） 11—2 日体大
栃木女高（栃木） 18—3 北摂ク（大阪）
尼崎ク（兵庫） 12—9 大谷ク

▽同準決勝
寝屋川ク 6（3－1 3－2）3 愛知紡
栃木女高 17（5－4 12－3）7 尼崎ク
▽同3位決定戦
愛知紡 11－7 尼崎ク
▽同決勝
寝屋川ク 9（7－1 2－3）4 栃木女高

優勝メンバー

東	恵子
梶原	愛子
中東	倭子
菅井	重子
西田	淑子
竹内	幸子
大西	邦子
尾花恵美子	

女子、実業団の天下に

第6回大会以降の各大会記録はそのつど本誌に掲載されているので、ここでは優勝記録のみをおさめておこう。

この間の主な流れをとらえてみると、第6回以後は前述のとおり東京で定期開催されることになり参加チームも第7回大会の38チームを最高に全国の有力チームがこぞって参加するようになり、第10回大会の昭和38年度からは7人制一本化で、この大会が球界のメインエベントになった感さえ深い男子は第10回大会で初めて地区予選制が採用された。

第11回大会は推せん16チームのトーナメント、第12回大会からは「**全日本選抜**」と改称し、推せん8チームに厳選され、ハンドボールの"日本リーグ"的存在となっている。

女子は第11回大会までオープン第12回大会の改称を機に男子同よう推せん8チームによるビッグエベントに成長している。

ペナントの行方は、男子は、第8回大会で大崎電気（東京）が実業団チームとして初の優勝をとげたが、それ以外は関東側の学生が優勢。いまだ東京以外から優勝チームは出ていない。第6回大会で一般に伍して鎌倉学園高（神奈川）が3位に食いこんだのは当時大きな話題であった。

女子は第6、第7回大会と熊本ク（熊商大ク）が連覇したのが光る。第8回以後は実業団が連続優勝。実業団の充実を切り抜けて第8回で日体大（東京）が、第9回で静岡城北高（静岡）が準優勝したのは特筆される。特に静岡城北高の活躍は球史を飾るものだ。

▼第6回＝昭和35年1月28日〜31
日・東京台東体育館
▽男子決勝（参加24チーム）
全芝工大（東京）14（7－8 7－5）13 全日体大（東京）
▽女子決勝（16チーム）
熊本ク（熊本）7（4－4 3－2）6 愛知紡（愛知）
全記録は本誌第1号に掲載

女子・熊本ク2連勝

▼第7回＝昭和36年1月24日〜28
日・東京台東体育館
▽男子決勝（38チーム）
全日体大（東京）16（7－6 9－8）14 大崎電気（東京）
▽女子決勝（18チーム）
熊本商大ク（熊本）9（3－4 6－0）4 栃木女高（栃木）
全記録は本誌第5号に掲載

男女とも実業団優勝

▼第8回＝昭和36年12月20日〜23
日・東京体育館ほか
▽男子決勝（31チーム）
大崎電気（東京）13（6－3 3－6 …… 2－1 2－2）12 芝浦工大（東京）
〔注〕大崎電気の当時の所属は東京
▽女子決勝（18チーム）
愛知紡（愛知）9（4－3 5－3）6 日体大（東京）
全記録は本誌第9号に掲載

全日体大、王座を奪還

▼第9回＝昭和37年12月20日〜23
日・東京体育館ほか
▽男子決勝（35チーム）
全日体大（東京）12（4－6 8－5）11 大崎電気（東京）
▽女子決勝（22チーム）
愛知紡（愛知）10（3－4 5－4 …… 1－1 1－0）9 静岡城北高（静岡）
全記録は本誌第13号に掲載

男子、地区別予選制を採用

▼第10回＝昭和38年12月19日〜22
日・東京台東体育館
▽男子決勝（地区予選勝者及推せんによる23チーム）
全日体大（東京）18（9－11 9－6）17 立大（東京）
▽女子決勝（15チーム）
大崎電気（埼玉）9（3－2 6－3）5 大洋デパート（熊本）
全記録は本誌第16号に掲載

全立大・田村紡が初優勝

▼第11回＝昭和39年12月16日〜20
日・東京体育館ほか
▽男子決勝リーグ（全参加16）
大崎電気（埼玉）28－9 同志社大（京都）
全立大（東京）23－15 日体大ク（東京）
全立大 21－13 同大
大崎電気 15－13 日体大ク
同志社大 22－17 日体大ク
全立大 21－16 大崎電気
【順位】①全立大②大崎電気③同志社大④日体大ク
▽女子決勝リーグ（全参加13）
田村紡（三重）6－4 大洋デパート（熊本）
愛知紡（愛知）4－3 レナウン（東京）
レナウン 6－5 大洋デパート
田村紡 3－2 愛知紡
大洋デパート 10－7 愛知紡
田村紡 13－8 レナウン

【順位】①田村紡②大洋デパート③愛知紡④レナウン

"全日本選抜"に改称

▼第12回＝昭和40年12月14日〜19日・東京体育館

▽男子決勝リーグ

全立大（東京）	16—12	大阪イーグルス（大阪）
芝浦工大（東京）	16—11	大崎電気（埼玉）
全立大	22—12	大崎電気
芝浦工大	16—5	イーグルス
大崎電気	17—12	イーグルス
芝浦工大	12—10	全立大

【順位】①芝浦工大②全立大③大崎電気④大阪イーグルス

▽女子決勝リーグ

愛知紡（愛知）	6—5	大崎電気（埼玉）
田村紡（三重）	10—7	大洋デパート（熊本）
大洋デパート	13—1	愛知紡
田村紡	10（分）10	大崎電気
田村紡	9—3	愛知紡
大洋デパート	7—6	大崎電気

【順位】①田村紡②大洋デパート③愛知紡④大崎電気

大崎電気女子勝つ

▼第13回＝昭和41年12月21日〜25日・東京体育館

▽男子決勝リーグ

芝浦工大（東京）	17—14	関大（大阪）
全立大（東京）	12（分）12	大崎電気（埼玉）
芝浦工大	19—17	大崎電気
全立大	17—8	関大
大崎電気	20—12	関大
全立大	20—14	芝浦工大

【順位】①全立大②芝浦工大③大崎電気④関大

▽女子決勝リーグ

田村紡（三重）	20—6	東京女体大（東京）
大崎電気（埼玉）	5—2	三菱鉛筆（山形）
日体大（東京）	10—8	東京重機（神奈川）
日体大	7—4	三菱鉛筆
大崎電気	11—4	東京女体大
田村紡	20—9	東京重機
大崎電気	12—1	日体大
田村紡	12—4	三菱鉛筆
東京重機	13—7	東京女体大
三菱鉛筆	9—2	東京女体大
大崎電気	11—5	東京重機
田村紡	13—9	日体大
三菱鉛筆	8—5	東京重機
日体大	12—5	東京女体大
大崎電気	8—4	田村紡

【順位】1大崎電気②田村紡③日体大④三菱鉛筆⑤東京重機⑥東京女体大

【次号の球史は最終回】

室内第1戦は27年12月

球史第32回（本誌第43号）に室内（7人制）の国内における公式第1戦は昭和28年2月大阪での関西選手権としましたところ、このたび大阪・村田弘氏よりこれより以前の貴重な資料（後掲）が寄せられました。

村田氏にあつく御礼申しあげるとともに、公式第1戦の項を訂正させていただきます。

……○……

室内（七人制）の国内における公式大会の最初というと球史第32回に紹介された関西選手権になるが、"最初の試合"となると、村田氏から教示のあった「大阪府立体育会館開館記念行事・室内ハンドボール大阪クラブ対大阪学生選抜軍」がどうやらいちばん古い。

この試合は昭和27年12月3日午後一時半から行われたもので、大阪クは、その年の国体一般男子に2連勝した社会人ナンバー・ワン。大阪学生選抜軍は学生界のトップチーム関学が主体。"第1戦"を飾るにふさわしい対決といえた。スコアは

大阪ク 6（3—1 3—1）2 大阪学生選抜

出場メンバー

	【大阪】	【学生選抜】
GK	大倉	熊倉（関学）
FP	中出	藤原（関学）
	浜中	甲谷（関学）
	岡本	高田（関歯大）
	平岡	三宅（大大）
	村田	森島（関学）
	渡辺一	朝日（関学）
	白井	田原（関学）

主審・山田計（日体OB）

であった。

それにしても、"室内"の名が国内で口にされはじめたのは27年春ごろからといわれているにもかかわらず、その年のくれ、早くも新設体育館の記念行事に組みこませ、しかもトップチームのカードを編成した関西球界の手腕は驚くべきものがある。

第2次大戦後、球界のリーダーシップをたえずとっていた関西球界の活動は、球史の中にかなり大きなウェイトをもって刻みこまれてよいと思う（杉山）

地方協会告知板

福井副会長に関氏

福井協会では、今年度から副会長をおくことになり、このほど関捨男氏（福井県議）を決め、発表した。

香川理事長は辻氏

香川協会は役員改選で、新理事長に辻要氏（香川・高松工芸高）を選出した。

京都協会住所変更

京都協会の連絡先は次のように変わった。

京都府右京区嵯峨広沢南野町19の11　小西博喜氏気付

中京商が中京高に

愛知協会所属の中京商業はこのほど校名を中京高に変えた。

同校は、昭和34、35、36年全日本高校選手権に3連覇した名門。

寄稿歓迎

各地の記録

女子 大分東　男子 鶴崎工優勝

▼九州高校選手権大会（6月17・18日都城）

▽男子一回戦

鶴崎工（大分） 21—9 国加高（長崎）
済々黌（熊本） 14—13 都城工（宮崎）
鹿児島工（鹿児島） 24—22 小倉工（福岡）

▽同準決勝

鶴崎工 21—8 泉ヶ丘（宮崎）
済々黌 18—14 鹿児島工

▽同三位決定戦

鹿児島工 19—13 泉ヶ丘

▽同決勝戦

鶴崎工 15（6—10、9—4）14 済々黌

▽女子一回戦

菊池農（熊本） 17—13 都城西（宮崎）
大分東（大分） 14—6 島原農（長崎）
明善高（福岡） 16—12 泉ヶ丘（宮崎）
加治木（鹿児島） 20—2 嬉野商（佐賀）

▽同準決勝

大分東 9—4 菊池農
明善高 16—6 加治木高

▽同三位決定戦

菊池農 12—4 加治木高

▽同決勝

大分東 12（6—3、6—1）4 明善高

紋別北、宿願はたす

北海道高校選手権は7月8、9の両日紋別市に男子11、女子10校が参加して開かれた。

男子は、進境著しい紋別北が準決勝で函館東を破った余勢をかって初優勝。女子は室蘭商が3試合で44点をあげる抜群の攻撃力をみせて4年連続優勝を飾った。

▽男子1回戦（3試合）

紋別北 19—12 登別
函館東 19—10 室蘭工
札幌月寒 14—10 室蘭商

▽女子1回戦（2試合）

札幌月寒 10—7 室蘭栄
室蘭清水丘 20—2 稚内大谷

【注】男女とも2回戦（準々決勝）以後は、全日本高校北海道予選に同じ＝本誌10頁参照。

本田技研が優勝

▼第1回三重県実業団選手権（6月11日・四日市工）＝男子リーグのみ

本田技研 34—6 久居自衛隊
三菱油化 22—12 大協石油
本田技研 22—6 三菱油化
久居自衛隊 16—15 大協石油
本田技研 28—9 大協石油
三菱油化 20—10 久居自衛隊

【順位】①本田技研②三菱油化③久居自衛隊④大協石油

勝田自衛隊勝つ

▼茨城県春季選手権（6月18日・原子力研究所グランド）

▽男子準決勝

勝田自衛隊 22—10 茨城大学
茨苑クラブ 24—16 日製日立

▽同決勝（主審柏崎）

勝田自衛隊 24（13—7、11—11）18 茨苑クラブ

編集後記

全日本学生選手権も無事終了した。立教、日体が順当に勝利を獲得し、新たな王座についた。攻撃は一段と多彩になり、見るものの眼を見はらせたが、守備はそれに対応していない。二・三の選手は守備面でも、なるほどといわせる技術を身につけてきてはいるが、どうも全体を通して見た場合には、まだまだの感が強い。ぜひとも守備面を強化し、近くは西ドイツとの試合に、遠くは世界での覇権をめざして努力してほしい。

続いてインターハイ、教職員、総合と大会が続く、今号はインカレの結果を全部組みこむと同時にインターハイの予選を追ってみることにした。できることなら、一回戦からの全記録をとと考えたが、全記録を収録するには、本誌を一号それにさかなければならないような量があり、準々決勝からということにしてしまった。来年度からは、もう少し考え、なるべく全記録が収録できるようにしていきたいと思っているが、紙数がそれを許すかどうかの問題がでてくる。

前号の「このようにして世界選手権を獲得した」は大きな反響を呼んだ。次号に特集したいと思っている。（TS・F）

チヨダは印刷機材の合理化を推進する総合メーカーです。

営業三課／粟田満夫

パーフェクトは夢の印刷機（全自動）です。
超薄紙から厚紙まで、忙しい人手の足りない工場に大好評。

営業三課／打林行夫

本社新社屋

パーフェクトはたくさんの賞賛の言葉をいただきました。よい製品をつくる励みになります。

営業一課／庄司政雄

新製品 **パーフェクト** 全自動B四截凸版印刷機

横浜支社

千代田印刷機製造株式会社
千代田印刷材料製造株式会社

本社	東京都千代田区神田猿楽町1－4	TEL 東京(292) 2011（代）～8
横浜支社	横浜市西区高島通り1－7	TEL 神奈川(045) 44－6572・7358・7028
福岡支社	福岡市御供所町3番16号（聖福寺前）	TEL 福岡（28）3960・0153
立川工場	東京都昭島市東町1丁目1番地5号	TEL 立川(0425) 2－2470・4383
九州工場	佐賀県小城郡牛津町（牛津駅前）	TEL 牛津 72

日本ハンドボール協会編 ハンドボール 第四十五号
昭和四十年六月[illegible]日 第三種郵便物認可
昭和四十二年七月二十五日印刷 昭和四十二年八月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会《東京都渋谷区神南町二五 電話大代表(461)三二一一 振替東京五八三四八番》
編集兼発行人 鈴木達雄 定価百五十円